

令和6年度 世田谷区姉妹都市 中学生教育交流事業 (カナダ・ウィニペグ市) 活動報告書



世田谷区

目 次

発刊に寄せて 世田谷区長 保坂 展人	1
--------------------	---

世田谷区中学生親善訪問団 団員名簿・バディペアリング	2
----------------------------	---

派遣事業について

派遣前・後のスケジュール	4
--------------	---

派遣日程	5
------	---

派遣の様子	7
-------	---

生徒からの報告	9
---------	---

引率者より	3 9
-------	-----

受入事業について

受入までのスケジュール	4 4
-------------	-----

受入日程	4 4
------	-----

受入の様子	4 6
-------	-----

生徒からの報告	4 9
---------	-----

関連資料

ウィニペグ市の概要	8 1
-----------	-----

世田谷区とウィニペグ市の交流の歩み	8 2
-------------------	-----



世田谷区とカナダ・ウィニペグ市は、昭和35年（1960年）の児童・生徒による絵画の交換をきっかけとして友好を深め、昭和45年（1970年）に23区に先駆けて姉妹都市提携を行いました。その提携に至るにあたっては、第二次世界大戦でカナダ在住の日本人が収容され厳しい農業をしていた地からほど近い都市がウィニペグ市であり、「戦後移り住んだ日本人が大変に

世話になったウィニペグ市とつなげたい」と考えた当時世田谷区在住の方の熱意がありました。令和7年（2025年）には姉妹都市提携55周年を迎えます。

特に、中学生交流事業は、提携翌年の昭和46年（1971年）に始まり、世田谷区とウィニペグ市の交流の柱となっています。令和2年3月以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための海外渡航規制により、ウィニペグ市との中学生交流も休止となっていましたが、ついに今年度、再開することができました。今回の派遣は26回目、受入は24回目にあたります。

まずは、世田谷区の生徒の皆さん、ウィニペグ市の生徒の皆さんが、事業全体を通して元気に過ごせたことを大変嬉しく思います。

9月の派遣事業では、ウィニペグ市長や市関係者への表敬訪問のほか、学校訪問やウィニペグ市の豊かな自然の中で校外学習を行いながら、ホストファミリーの皆さんから心温まる歓迎を受けたと聞いています。

1月の受入事業では、世田谷区の皆さんのご家庭でウィニペグ市の生徒の皆さんがホームステイを行いました。世田谷区での様々な受入プログラムを通して、日本の生活や文化を学び、お互いを理解し合い、交流を深める貴重な機会になったのではないのでしょうか。

両都市の中学生が文化や言葉を超え、同じ環境でともに活動したそれぞれの滞在の日々は、皆さんにとってかけがえのない財産になったことと思います。ぜひこの経験を今後の人生に生かしてってください。

最後になりますが、ウィニペグ市長及び市の関係者の皆様、ペンビナトレイルズ教育学区の先生方には大変お世話になりました。また、保護者の皆様をはじめ、ご協力をいただいた各学校の先生方、ご引率いただいた先生方や区議会をはじめ区内の関係者の皆様のご協力に心から御礼申し上げ、私の巻頭の言葉とさせていただきます。

世田谷区中学生親善訪問団 団員名簿・バディペアリング

	世田谷区 生徒氏名	学校名・学年	ウィニペグ市 生徒氏名	学年・学校名
生徒	高橋 璃彩	桜丘中学校 2年	Sienna Oliviera	9- St Mary's Academy
生徒	中島 彩	緑丘中学校 2年	Ivy Karsin	8- Linden Meadows School
生徒	溝下 結己	緑丘中学校 2年	Ari Hansen	8- Linden Meadows School
生徒	鈴木 玲奈	駒留中学校 2年	Yeha Park	9- St Mary's Academy
生徒	新村 ちかる	梅丘中学校 2年	Giuliana Borelli	8- Linden Meadows School
生徒	岡林 佑青	富士中学校 2年	Olin Liu	8- Linden Meadows School
生徒	合志 俊太郎	玉川中学校 2年	Ethan Nowicki	8- Linden Meadows School
生徒	宮本 圭	砧中学校 2年	Ryan Kelly	8- Linden Meadows School
生徒	柳 さくら	砧中学校 2年	Kim Kamenkovich	8- Linden Meadows School
生徒	松尾 由茉	烏山中学校 2年	Kami Fontaine	9- Oak Park High school
生徒	今井 咲愛	千歳中学校 2年	Evelin Begelfor	8- Linden Meadows School
生徒	佐藤 花音	千歳中学校 2年	Ann Huang	8- Linden Meadows School
生徒	上田 憲翔	喜多見中学校 2年	Marcus Chang	9- St. Paul's High school
生徒	下平 隼佑	世田谷中学校 2年	Noah Kaptegain	9- Pembina Trails Collegiate

※Ann Huang は事情により受入事業不参加

	世田谷区 引率者氏名	所属	ウィニペグ市 引率者氏名	所属
団長	加藤 敏久	砧中学校 校長	Michelle Barclay(副校長) Kimberly Bryson(教員) Gee-ef Nkwonta(教員)	Linden Meadows School
引率	張元 文子	駒沢中学校 主任教諭		
引率	須田 のり子	船橋希望中学校 主任教諭		
引率・事務局	十河 初瀬	文化・国際課 職員		

派遣事業について



派遣前・後のスケジュール

項 目	日 程	時 間	会 場	内 容	出席者
派遣決定 通知書交付式 ／第1回 派遣準備会	6月15日 (土)	10:30 ~12:30	桜丘区民センター	・派遣決定通知書交付式 ・オリエンテーション	生徒 保護者 引率者
第2回 派遣準備会	7月21日 (日)	10:00 ~12:00	梅丘パークホール	・旅行会社からの説明 ・注意事項、渡航準備等	
派遣前 研修会 (全4回)	【第1回】 7月21日 (日) 【第2回】 8月4日 (日) 【第3回】 8月18日 (日) 【第4回】 8月25日 (日)	13:00 ~17:00	【第1~3回】 梅丘パークホール 【第4回】 教育総合センター 研修室「たいよう」	【第1回】 ・スローガン、役割等決め ・アトラクション検討・決定 ・カナダについて学ぼう(前回 派遣団長先生) 【第2回】 ・国際理解ワークショップ (NPO 法人 フリー・ザ・チルド レン・ジャパン) 【第3回】 ・各自の学習テーマミニ発表 【第4回】 ・派遣前の総まとめ(スピー チ・アトラクション) 【全体を通じて】 ・語学学習 ・公式行事等でのスピーチ練 習 ・アトラクションの練習	生徒 引率者
第3回 派遣準備会	9月1日 (日)	13:00 ~14:00	梅丘パークホール	・派遣に向けた案内・諸注意 ・出発式	生徒 保護者 引率者
事後研修会	10月20日 (日)	13:00 ~17:00	梅丘パークホール	・報告書・発表スライドの校正 ・受入事業オリエンテーション	生徒 引率者

派遣日程（ウィニペグ市滞在：令和6年9月13日～9月21日）

日数	月日	時間	スケジュール	服装	宿泊
1	9/12 (木)	12:00	世田谷区立教育会館集合	団Tシャツ& 私服	機内
		14:30 頃	成田空港到着		
		16:55	到着後、出国手続き・出発 →空路、バンクーバーへ(AC004)		
			～ 日付変更線通過 ～		
		9:45	バンクーバー空港到着後、入国手続き		ホテル
			ガスタウン見学		
		12:00	昼食(レストラン)		
			スタンレーパーク見学		
		16:00	ホテルチェックイン		
		18:00	夕食(レストラン) →ホテルに戻り入浴、就寝		
2	9/13 (金)	朝	朝食(ホテル)	私服	ホーム ステイ
		9:00	ホテル発		
			グランビルアイランド見学 →バンクーバー空港へ		
		11:00	到着後、チェックイン		
		昼	昼食(テイクアウト)		
		13:10	空路、ウィニペグへ(AC294)		
		17:56	ウィニペグ空港到着 →ホストファミリーと対面		
		19:30	歓迎夕食会 @Linden Meadows School		
		20:00	終了後、各ホストファミリー宅へ移動		
3	9/14 (土)	終日	ホストファミリーと過ごす Scavenger Hunt Activity(スカベンジャーハント)	私服	ホーム ステイ
4	9/15 (日)	終日 午後	ホストファミリーと過ごす A-Maze-in-Corn(トウモロコシ畑の迷路)	私服	ホーム ステイ
5	9/16 (月)	午前	歓迎集会 @Linden Meadows School	午前: 黒・紺ポ ロシャツ&落ち 着いた色の長 ズボン 午後: 私服	ホーム ステイ
			授業に出席(Indigenous Beading)		
		11:00	ペンビナトレイルズ教育学区 教育長表敬昼食会		
		午後	Oak Hammock Marsh オーク・ハンモック・マーシュ (野生生物保護地域)見学		
		夕方	Speed World(屋内ゴーカート)		
		夜	ホストファミリーと過ごす		

派遣日程（ウィニペグ市滞在：令和6年9月13日～9月21日）

日数	月日	時間	スケジュール	服装	宿泊
6	9/17 (火)	午前	マニトバ州議堂見学・マニトバ州議会議員表敬	黒・紺ポロシャツ&落ち着いた色の長ズボン	ホームステイ
		昼	昼食		
		午後	日本文化センター訪問		
		夕方	Activate(屋内体験型ゲーム)		
		夜	ホストファミリーと過ごす		
7	9/18 (水)	午前	授業に出席(Breakout box, Paddle art)	黒・紺ポロシャツ&落ち着いた色の長ズボン	ホテル
		11:30	ウィニペグ市長表敬昼食会		
		14:00	カナダ人権博物館見学		
		夜	Hyatt House ホテルに宿泊(市長ゲストとして)		
			夕食 → 入浴、就寝		
8	9/19 (木)	朝	Hyatt House で朝食	団 Tシャツ&落ち着いた色の長ズボン	ホームステイ
			Linden Meadows School へ移動		
		10:00	送別集会 @Linden Meadows School		
		昼	昼食		
		午後	授業に出席(gr7/8)		
			外活動・Learning from the Land Activity day		
		夕方	Uptown Alley Glow Bowling(ボーリング)		
		夜	ホストファミリーと過ごす		
9	9/20 (金)	午前	アシニボイン動物園見学	私服	ホームステイ
		昼	アシニボイン公園で BBQ とゲーム / Sargent Sundae		
		午後	植物園(The Leaf) 見学		
		夜	ホストファミリーFarewell BBQ		
10	9/21 (土)	5:30 頃	ウィニペグ空港集合 →ホストファミリーとお別れ	私服	機内
		7:30	チェックイン後、空路、トロントへ(AC258)		
		10:56	トロント空港到着 →国際線へ乗り継ぎ		
		13:25	トロント空港出発(AC009)		
			空路、日本へ		
11	9/22 (日)	15:45	成田空港到着	私服	
		16:00	到着後、入国手続き →バスで教育会館へ		
		19:00	世田谷区立教育会館到着・解散		

派遣の様子



出発



バンクーバー市内見学



ウィニペグ空港での出迎え



歓迎夕食会



リンデン・メドウズ・スクールでの
歓迎集会



カヌー体験

派遣の様子



市長表敬訪問



調理実習 (Maple Apple Crisp 作り)



カナダ人権博物館見学



マニトバ州議堂見学・
州議会議員表敬訪問



授業体験



送別集会でのアトラクション披露

生徒からの報告（派遣）

（感想文・まとめスライド）

テーマ「派遣で印象に残ったこと・学んだこと」



ウィニペグでの苦勞と経験

桜丘中学校 高橋 璃彩

ウィニペグ空港に着いたとき、「エレベーターを降りたらパートナーがいるよ」と言われ、上手くコミュニケーションを取れるかどうか不安になってしまいました。しかし、そんな不安は一瞬で消え去りました。車で移動中、パートナーが「フライトはどうだった?」「今の気分はどう?」と、簡単な英語でたくさん話しかけてくれて、とても安心しました。会話をしている中でどう返事をすれば良いかわからない時にも、パートナーが画像などを見せてくれて積極的に助けてくれました。意思疎通ができなかった時には、頑張って英語で話そうと努力しましたが、何度か Google 翻訳に助けを借りた時もありました。



ホームステイ中に気づいたことが2つあります。まず1つ目は、道路がとても広いことです。カナダは、面積が広く、日本よりも人口が少ないため、道路が広く見晴らしがとてもよかったです。2つ目は、歩いている人をそれほど見かけなかったことです。ちょっとした買い物や食事でも車を使うことが多く、あまり歩きませんでした。

印象に残ったことは、Linden Meadows School の授業に参加したことや、ホストファミリーたちが計画してくれた活動です。授業では、Linden Meadows School の隣にある市立公園で自然を堪能したり、スイーツやパンを作ったりしました。パン作りは焚き火を使って行い、自分の学校では体験できない貴重なものとなりました。ホストファミリーたちとの活動では、トウモロコシ畑の迷路、室内ゴーカート、屋内型体験型アクティビティ等、様々な遊びを楽しみました。特に、トウモロコシ畑の迷路はウィニペグの端にあり、都市部では見られない景色と気持ちの良い空気を感じることができました。



帰国の日が近づいてくるにつれ、「もう少し居たい」、「まだ帰りたくない」という思いが強くなりました。それだけ、今回のカナダ派遣が充実していたのだと思います。また、このカナダ派遣が成功したのは、一緒に参加した仲間のおかげです。事前の研修会でともに学び、助け合いながら過ごした日々は、かけがえのない経験となりました。今後機会があれば、カナダだけでなく、他の外国にも滞在し、魅力や文化を感じてみたいのです。そのために、引き続き英語の学習に励みたいです。

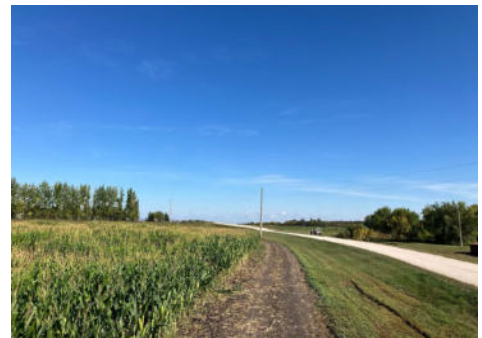
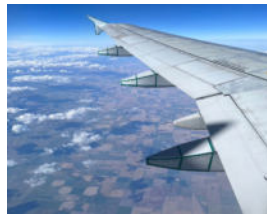
[カナダの自然]

カナダは、国土が世界で2番目に
広く人口は日本のおよそ1/3。

日本では滅多に見られない美しい
景色が楽しめた。

→カナダの人々は大自然に恵まれ
た環境で生活している。

近年、森林伐採や地球温暖化に
よる山火事が発生したりするこ
とによって自然が破壊されてい
る。そのため、政府は自然を守
るための目標を設定している。



[カナダの環境問題への取り組み]



2030年までに温室効
果ガスをゼロにする
取り組みをしている。

→プラスチック廃棄物
をゼロにする。

リサイクル率は
わずか10%未満

→2030年までに
リサイクル率を
50%以上にす
ることを目標と
している。



ゴミ箱の分別

→リサイクルできるもの
などを分けている。



レジ袋は基本、プラスチック製は
使われていない。

→実際に、近くのスーパーや
デパートに行った際、布製のもの
や紙でできた袋が使用されている。



Great adventure

緑丘中学校 中島 彩

『私には夢がある。それは、英語を使って海外の方とコミュニケーションを取ることだ。』

これは、私が海外派遣の一次試験の作文に書いた文章です。この派遣を通して、初めてのことをたくさん経験することができました。派遣の募集を知った時、初めは“一人で海外に行くこと”、“外国人とコミュニケーションを取ること”、“知らない家族と長く一緒に過ごすこと”、これらのことを想像すると不安でいっぱいでした。しかし、勇気を持って挑戦してみると新しい発見やかけがえのない出会い、たくさんの貴重な経験をする事ができ、とても大きな財産になりました。

そして、挑戦することの他に、派遣の事前学習や渡航中の活動を通して「仲間」の大切さを学ぶことができました。今回の派遣は私一人では決してこんなにもたくさんの学びにつなげることは出来ませんでした。仲間や引率の先生方、サポートしてくださった方々がいたからこそ経験することができたのだと思います。改めて人との出会いや繋がりを学ぶ大切な時間になりました。

この派遣は、私にとって初めての冒険でした。日本とは違うカナダの文化を知ることや、現地のスクールでの授業体験、英語を使ったカナダの学生との交流など新しいことに挑戦するにはとても勇気が必要ですが、仲間と助け合い、学び合うことでたくさんの貴重な経験ができました。

こうした新しくチャレンジする経験を積み重ねることが、自分にとって大きな財産になるのだと思います。私はこれからも挑戦する勇気と人との繋がりを大切にしていきたいです。今回は貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



リンデン・メドウズ・スクールの体育館で



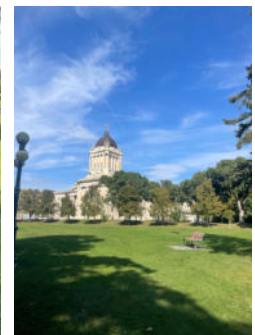
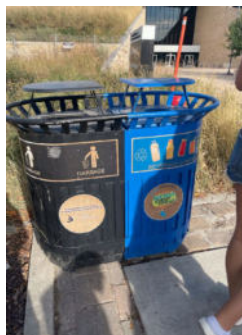
オーク・ハンモック・マーシュ

【カナダの人の優しさ】

派遣の中で気づいた
カナダの人の親切なところ

私たちのカタコト英語
を全力で聞き取ろうと
してくれた。

→ずっと緊張と不安ばかりだったけれど、
カナダの友達が親切にしてくれて緊張が
なくなった。



【ボランティア活動が盛んなカナダの世界】

日本の都会ではなかなか見ることのできない自然がたくさんあった。
→カナダの人の“親切”は、人に対しても環境に対してもあるのかもっと知りたい。

カナダのボランティア活動には実際に参加することはできなかったけど、
街の至る所にリサイクルのゴミ箱と普通のゴミ箱があった。
→カナダの街は緑が多く、野生の生き物がたくさんいた。

海外派遣を通してウィニペグで学んだこと

緑丘中学校 溝下 結己

この海外派遣に応募したきっかけは、将来世界に貢献できるような人材になりたいと考えていたからである。そんな海外派遣はあっという間という感覚だったが、とても充実した11日間だった。私たち派遣団は「The World Is Our Classroom! ～伝えよう文化の輪～」というスローガンを掲げ、活動に取り組んだ。私は最近注視されている環境問題について興味を持った。例えば、私は、カナダは自然豊かで空気も清々しいというイメージがあるが、リサイクル率を調べたところ、カナダのリサイクル率は9%、日本はなんと19%と、日本の方がリサイクル活動に力を入れているということがわかった。そのような現状を踏まえ、環境問題解決に向けて私にできることはないか考え、行動に移し貢献するということを最終目標に定めた。その目標を達成するために、環境問題の解決を目指してウィニペグではどのような取り組みをしているのかということ、今回の派遣でのテーマとした。

まず、一点目としてカナダ国内では、使い捨てプラスチック製品を禁止し、2030年までにプラスチックゴミをゼロという目標を掲げている。プラスチックゴミがゼロになると、1年間で300万トン出ているプラスチックゴミがゼロになることにもなる。例を挙げると、ウィニペグでレストランに行った時にはストローが紙ストローで出されたり、フォークなども紙製品で出されることもあったり、達成に向けて取り組んでいることを直接見る事ができた。

次に、二点目として歩道にゴミ箱があったり、ビンやカン専用のゴミ箱があったりしたことである。街中にゴミ箱があることでポイ捨てを未然に防ぐことができ、街の景観も損なわれることもない。そして前述のとおり、リサイクル率の低いカナダでは、リサイクルできるもの専用のゴミ箱を作ることによってリサイクルが促進する。このことは、現状を打開すべく行っていることなのではないだろうか。

ウィニペグは自然豊かであり、街中にもリスが生息していたり、私がホームステイした家の庭にも野生のウサギがやってきたりと多くの動物が生息している。そのため、ウィニペグでは動物を保護したり、動物に対しての考えを深める講座などもあるということ、ホストファミリーから聞いた。その点は、自然が豊かなウィニペグだからこそ行なっている活動なのだと感じた。私は海外に行かないとわからない貴重な体験をし、ウィニペグの生徒と交流し、たくさんの思い出をつくる事ができた。この海外派遣は今後の人生で生かせることがたくさんあり、一生忘れない経験をする事ができたことに感謝し、これからは最終目標である環境問題解決に向けて貢献できることを

を考え、学校全体でエコ活動を行ったり、学校や地域の方に広めたりしていきたい。



ウィニペグでの環境問題への取り組み



①歩道にゴミ箱が設置されている。
→ポイ捨てを未然に防ぐ目的がある。種類ごとに投入する場所が分けられている。(分別)



②リサイクル専用のゴミ箱が設置されている。
→カナダはリサイクル率が低い¹ため設置されているのではないだろうか。



③自然環境の保護
→ホームステイした家の庭で野生のウサギを見ることができた。他にも動物の保護に関する講習も行われている。

ウィニペグでの学びを通して…

カナダでは…

2030年までにプラスチックゴミゼロを目指している。そのため、カナダではプラスチック製のフォークなどを禁止している。



学びを通して…

日本はリサイクル率が19%²に対して、カナダは9%³と先進国としては低い数値になっている。そのような現状を打開すべく、リサイクルや分別、環境保護が行われているということがわかった。

【参考資料】閲覧日 令和6年10月20日：
・LIGHTSHIP Inc.「海外のプラスチック汚染対策：規制の厳しい国と規制のない国の現状と懸念」
<https://www.lightship7.co.jp/posts/54352309/>
・環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等（令和4年度）について」
https://www.env.go.jp/press/press_02960.html

まとめ

今回ウィニペグで学んだことを地域の方に広め、学校では学びを生かした取り組みをしていきたいと考えた。



「言葉の壁」

駒留中学校 鈴村 玲奈

良くも悪くも私の印象に一番残ったことは、「言葉の壁」です。カナダでは日本語は使えません。わかってはいたものの、実際に行くと、その心細さは予想よりも遥かに大きかったです。しかし、せっかく海外に行ける機会をいただいたので、なるべく翻訳アプリなどは使いたくありませんでした。ですので、伝えたいことは全て持って行った辞書と身振り手振りで頑張って伝えました。授業で習った文法や、事前に自分で勉強していったことなども役には立ちましたが、実際に話すとなると、日常生活で使う言葉や初歩的な言い回しでも、あれ？となることが多く、意思疎通を図るのがとても大変でした。そして、思ったことが通じない・伝えられないということはこんなにも大変で、もどかしいことなのか、と改めて実感しました。

しかし、事前学習やある程度の単語の勉強をしたことはかなり大きかったと思います。単語を繋げて話せば、完璧には話せずとも意味が伝わるからです。そして、身振り手振りでコミュニケーションを取ることで、始めは伝わらなくても少しずつわかってもらうことが出来ました。それだけではなく、現地の人達にも頑張って話そうとしていることをわかってもらえて、不完全な英語でも何を言おうとしているか理解してもらえるようになり、とても嬉しかったです。

言葉の壁はあったけれど、その壁を前にして諦めるのではなく、どう乗り越えるか考える、そして、コミュニケーションを取ることを諦めない。このことの大切さを改めて知りました。このことを今後の日常生活でも生かしていきたいです。



カナダ派遣

～カナダの人柄と日本との違いについて～

- 時間には結構ルーズ…！？
- 温かく、ノリが良い
- コミュニケーション能力が高い人が多い！



細かいことは 気にしない精神

- 何かあってもどうにかなる
- リラックス重視
- 言葉で伝える
- 日本とは違う良さ



ウィニペグの人たちとの交流

梅丘中学校 新村 ちかる

英語も話せないし、初対面の人とすぐに打ち解けることもあまり得意ではない私は、とても緊張していました。でも、団員のみんなや現地の人たちがとても温かくて、ウィニペグで過ごした11日間は、とても濃くてあっという間で、最高に楽しかったです。

その中でも特に印象に残っていることは、現地の人たちとの交流です。

空港で初めてホストファミリーと会った時、パートナーがハグをしてくれて少し緊張がほぐれました。事前のメールでのやりとりを通してお互いを知っているとはいえ、初対面なので、カナダの人たちはフレンドリーなのだなと感じ、とても驚きました。

現地の学校に登校した際も、他の団員のパートナーや先生が話しかけてくれて、簡単な会話を通して英語を教えてくれたり、「日本語では何と言うの？」と聞いてくれたりしました。拙い英語だったり、上手く文章にできない時も聞いてくれて、とても温かい人たちだなと思いました。

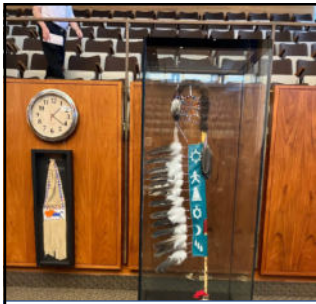
放課後や休日にはホストファミリー達が企画してくれたレクリエーションがあり、日本、カナダの団員が集合して色々なところに行きました。レクリエーションの場では学年やクラスで分かれてしまうことがないので、いろいろな人と関わることができました。

また、送別集会では、現地の学校の全校生徒の前で「ソーラン節」と「Good Time」を披露しました。なかなか納得できるクオリティーにならず不安でしたが、想像よりもみんなが盛り上がってくれて、とても楽しかったし、達成感を味わいました。

最初は緊張でうまく話すことができなかったけれど、お別れの時にはみんなで泣いてしまうくらいに家族のような存在になっていて、改めてカナダに来ることができてよかったと思いました。

カナダの文化を知るだけでなく、日本の文化を伝えるのも私たちの役目なので、受け入れでも頑張りたいです。





ウィニペグ市議会に飾ってある先住民の装飾品



美術の授業で安全ピンとビーズを使い
先住民の伝統工芸を模したアクセサリーを作った



現地の生徒が
披露してくれた
先住民の踊り



スタンレーパークの
トーテムポール

先住民の文化が
息づいている都市

交流し、理解しあった経験

カナダの人たちは、それぞれの**文化や価値観**を大切にしていいて、**異文化や異民族を受け入れる姿勢**がある人たちだと分かった。

実際にホームステイすることで、**生活習慣などの違い**を身近に感じた。
言語での意思疎通が難しいことも多くあったが、ジェスチャーなども使って**コミュニケーション**を取ることができた。

カヌー体験



先住民の遊びを体験



レクリエーションの謎解き



今回の派遣で学んだ大切なこと
・言葉が通じなくても**コミュニケーション**を取ることができる
（諦めないことが大事！！）
・実際に「**やってみる**」ことでより多くのことを学べる
・違いも**受け入れる**、違うことを**楽しむ**

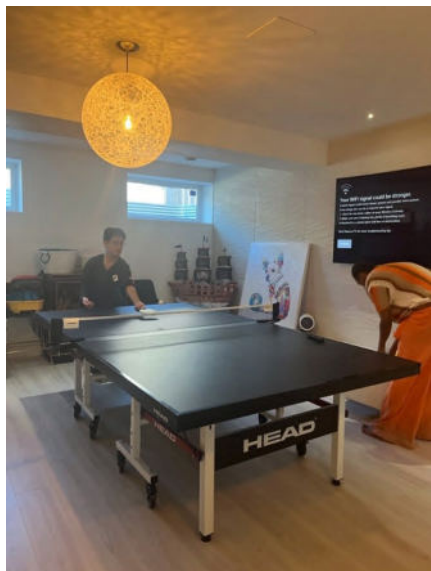
パン作り体験



カナダで学んだこと

富士中学校 岡林 佑青

私は、このカナダ派遣を通して学びたいことであった、スポーツのことをはじめ、他にもたくさんのことを学びました。私が最も学びたかったことであった日本とカナダでのスポーツの違いのことを紹介します。ウィニペグの学校や街を回っていて気づ



いたことは、事前学習で調べたとおり、テニスなどのコートが見当たらず、あまり一般的なスポーツではないということです。その代わりにバスケットコートや、バレーボールのコート、意外にも卓球台も多く見られました。特にバスケットコートは、3軒に1軒くらいの感覚で見られ、カナダでは日本以上にバスケットボールは一般的なスポーツで人気があるということがわかりました。また、バスケットコートほどではありませんが、卓球台もよく見られ、実際にスーパーマーケットのようなところでホストファミリーと現地でできた友達と卓球を1時間ほどしたり、友達の家卓球台がありそこでやったりもし、とても楽しかったです。

次に現地で実際に感じたことについていくつか紹介します。

まず初めに驚いたのは、あまり英語が得意でなく話すことがあまりできなくても会話が成立するということです。初めてホストファミリーに会い、車で移動している時は、少しは聞き取ることができるものの、話すことができなかったりし、会話が成立しませんでした。しかし、だんだんと心が繋がってきたり、英語に慣れてくると、その場では日本語混じりの意味不明な英語で話していても、ジェスチャーや心が繋がってきていることもあり、意味を汲み取ってくれ、会話が成立しました。会話が成立すると、思っていたよりも嬉しく、もっと会話したいと思いました。また、思っていた以上にカナダの方々はノリがよく、それは子供だけでなく、大人の方まで盛り上がるくらいでした。

次に驚いたのは、自然についてです。まず圧倒的に日本よりも緑が多く、空気が美味しかったです。また、日の出の時間がとても遅いです。日本だったら午前5時半くらいには薄明るくなってくるとは思いますが、ウィニペグでは、午前7時時点でようやく薄明るくなってくる感じでした。暗いのが苦手な私には結構効きました。



最後に、私は今回のカナダ派遣に参加して本当にいろいろなことを学び、海外のことについて知りました。この文章内だけでは伝えられないことも数えきれないほどあります。ですので、皆さんも自分で海外に行き感じてきてほしいと思います。

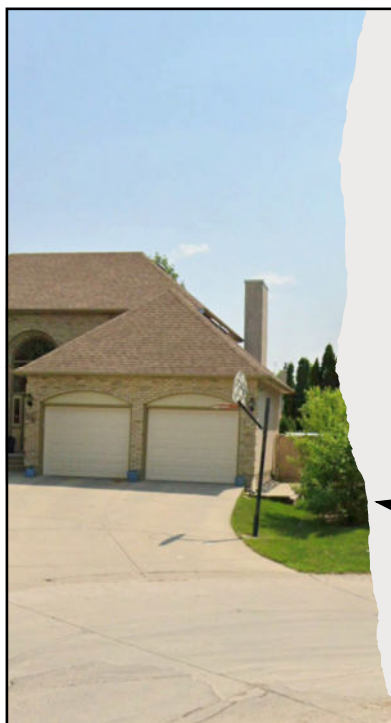
カナダの スポーツ文化

意外にも結構卓球が人気で、一般的なスポーツとして親しまれていました。また、家やスーパーマーケットみたいなところもあり、自由に使うことができる卓球台がありました。



海外でも野球が行われており、
広大な土地を生かした、とても
大きいグラウンドがありました。

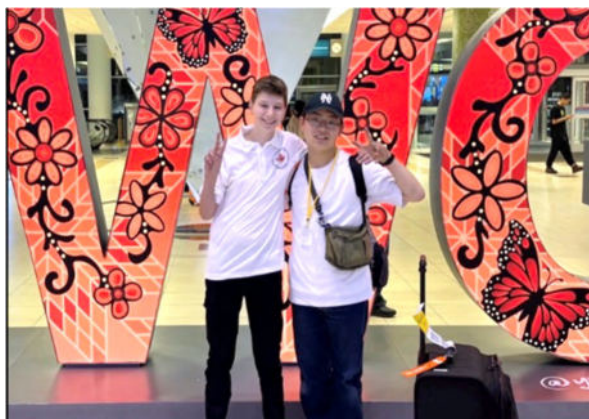
3軒に1軒くらいの割合
で民家にバスケット
ゴールが置いてあった
り、学校の外にバス
ケットコートがあっ
たりしていた。



個人の意見を大切に

玉川中学校 合志 俊太朗

今回、僕は初めて日本を離れ異国の地で生活をしました。渡航前は、とても不安でした。一緒に行くメンバーは準備会、研修会、合わせてわずか6回しか会ったことがない、初めて行く海外が家族とではない、ましてや英語が話せるかすらわからない状態でした。しかし、ウィニペグの空港でバディーと対面した瞬間、不安はなくなりました。ハグで僕たちを迎えてくれて、緊張が少しほぐれました。遥かに想像の上をいく楽しさに大興奮です。家の広さからスーパーなどで売られている商品などの量や売り方、日本では見たことがないようなもので溢れかえっていました。



生活していく中で驚いたのは、他人を尊重するリスペクト精神です。英語をうまく話せない僕たちに対して、急かすことなく、しっかりと言いたいことや伝えたいことを一生懸命に受け止めてくれることです。こちらがわからないと言った時も、ジェスチャーや簡単な単語に噛み砕いて説明してくれるなど、ウィニペグの人の温かみを感じました。また、日本とは違い、意見を遠慮せずはっきり伝えることです。それに加えて、ハグなどのスキンシップで気持ちを共有しました。その文化が僕にはとても合っていると感じました。

また、マニトバ州議会を訪れた際にも衝撃を受けたことがあります。市の会議に中学生や高校生が参加できることです。約二席ほど中高生用の席が用意されていて、市の会議がどのように行われているのかを間近で見ることができ、政治を身近に感じられるのが良いと思いました。



Forks にてホストファミリーと撮影

この11日間で僕たちは、貴重な経験をさせてもらいました。様々な人と関わることができました。このような経験は一生ものだと思います。僕は、一次選考の作文で、「帰国後、派遣で学んだことを学校の友達に共有する、街で困っている外国人がいたら助ける」と書きました。ですので、カナダで学んだ失敗は恥ずかしいことではないという気持ちを持ち、実行していきたいと思います。この派遣を支えてくれた先生方や家族にも感謝したいです。

Winnipeg

Setagaya

～十日間生活して感じた日本との違い～



市議会にて



政治が身近に

テレビで市議会の様子が放送されているのはもちろんのこと、中高生が市の会議に参加でき、政治と関わりが深いと感じた。



意見は遠慮せずはっきり

日本では遠慮や暗黙の了解がありますが、カナダにはありませんでした。しかし、日本にはない文化もありました。それはスキンシップです。はっきりと意見を言う代わりにハグなどで気持ちを分かち合う文化がありました。

自ら行動すること

砧中学校 宮本 圭

僕は、世田谷区中学生親善訪問団としてカナダに行きました。そこでは日本と違う環境に驚き、カナダの文化について学ぶことができました。特に、カナダ文化で驚いたことや感心したことがありました。

一つ目にカナダの歴史です。日本では、島国としての特徴から、大きな人種の変化がほとんどなかった歴史がありました。しかし、カナダは全く違い、もともといた先住民に対して移住してきたヨーロッパ系の人、またその後からやってきたアフリカ系の人など、あらゆる人種がいることが挙げられ、カナダ国内というよりは、他の国々や民族との関係が重要な国だと思います。そういったカナダという国ですが、最近は先住民の生き方が再注目されており、博物館でも先住民の衣服や過ごし方、生活スタイルが大々的に展示されており、カナダの国民も自分たちの先祖に関心があるように思えます。また、私たちが行ったオーク・ハンモック・マーシュという野生生物保護地域では、先住民の狩りを模した遊びがあり、先住民のことを知るだけでなく体でも感じられる、とても良い経験になりました。

二つ目にコミュニケーションについてです。言語は英語、フランス語が公用語で、地域で分かれており、ウィニペグ市は英語が公用語でした。カナダの人と会った最初はなかなか英語が出てきませんでしたが、慣れていくうちに会話がスムーズになっていきました。カナダの人はリアクションが大きくて、こちらが何かを伝えたと何かしら反応をくれるので、



会話が楽しいと思えるようになりました。こちらの発言が英語の発音が悪いなどで相手に伝わらなかった時はジェスチャーなどを使って、なるべく翻訳アプリは使わないように心がけました。翻訳アプリは確かに便利だけれども、使ってしまうと会話の面白みがなくなってしまいます。翻訳アプリを使わず自力で相手に話が伝わった時は、相手側も自分も嬉しくなってハイタッチをしました。

このように、カナダで驚いたこと、嬉しかったことは他にもたくさんあります。言葉が通じなくても、カナダ人と同じ経験をして、同じことを思い、感情を共有するのは全く不可能ではないと思いました。僕は、世界が一つに繋がることは夢物語で不可能だと考えてしまうこともありました。しかし、この経験を通して、それは間違っていて、自分が繋がろうと何かしらの動きをしないと何も起こらないということを実感しました。これからは、自分で考えて行動する、何も起こらないじゃなくて、行動して自ら起こしていくようにしたいです。

カナダの食

- ・ハイカロリー、量が多い
- 例→パスタ、ピザ、ハンバーガー
ピザやハンバーガー、ステーキはアメリカンなもので生地や肉が分厚い
- ・おやつや間食がしょっちゅうある
 - ・カナダの日本食
- カナダ人の好みに合わせて変わっている。
例、カリフォルニアロール、焼きそば
しかし、日本のまま伝わっている食べ物もある 例 寿司



水

- ・水の味は日本の水と若干の違いがあって、カナダの方が少し硬い水だった。
- ・空港や学校など至る所の施設に給水スポットがあって水を汲むことができた。
- ・日本でもこういう給水スポットが広がっていてエコな取り組みが広がっていくといいと思う。



カナダと日本の違い

砧中学校 柳 さくら

私はカナダの海外派遣を通して、日本とカナダの違いについて考えた。

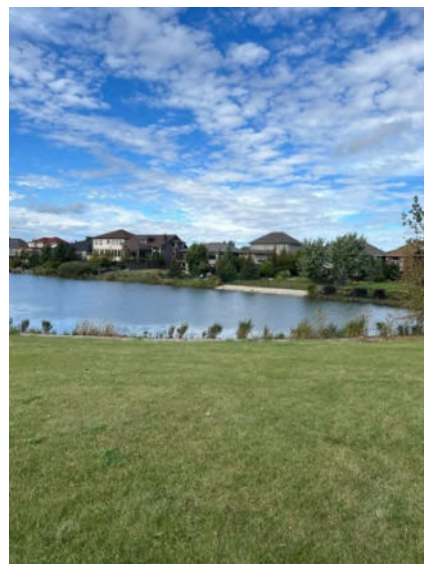
まず、私たちはLinden Meadows School という学校に行った。そこでは、日本とカナダの学校の大きな違いが見られた。

カナダでは飛び級制度があり、同じ年齢でなくても同じクラスになる。私のクラスは、6歳からの子供から14歳くらいの子供まで様々な年齢の生徒がいた。

次に、カナダの学校の敷地には、日本の学校と比べて何倍も広い池や、公園にあるような遊具から焚き火をする場所まであった。

そして、カナダの学校では、毎朝生徒が地域のボランティアをしていたり、学校の横に生徒が作った「いらなくなった本を無料であげる Box」などが設置されていたりしていた。そのせいか、カナダでは地域の住民が学校に対して寛容なことに

驚いた。この特徴は、ただ学校があるというだけではなく、学校があることで地域の住民にも貢献できるため、日本も見習うべきことだと思った。なぜなら、日本の学校では、生徒会や



委員会などが挨拶運動をしたりすることはあっても、それらは選挙で選ばれた人のみが活動するだけで、限られた人しか活動できない。また、小学校では、“学校側が地域の人に貢献しよう”とゴミ拾い活動をすることがあるが、一年に一回など回数が少ない。理由は、日本の学校では、学校内の活動がある程度規制されてしまう傾向にあるからだ。もっと能動的な子供たちの行動によって、進んで社会と関われる人間が育てられると考えられる。そして、リアルな社会にその時必要なこともわかるのだと思う。

もう一つ、今回の海外派遣で痛感したことは、各国々がそれぞれ異なる国面積や歴史を持っているけれども、個人個人でいえば、日本もカナダも同じ人間なのだ、ということだ。私は、海外の考え方としては、大きな側面から見た時に多様性が認められていて、自由なのだと考えていたが、個人個人に視点を置いてみると、実際は、自分の意思というよりも、周りの雰囲気に合わせて同調するような日本人と同じ側面があると思った。ただ、大事なのは自分の考えを持って行動に表すことだと感じた。何事にも能動的に接することが大事だと思った。

カナダ海外派遣 を体験して感じたこと



カナダの人も日本人も変わらない。

カナダでは能動的にどんな状況でも自分の気持ちや考えを伝えることが大切だと気付かされた。



カナダの学校は地域との結びつきが強く、生徒が周りの地域と関わりを持つことが多いと感じた。



要らなくなった本が無料でもらえるbox



&

学校の中は色とりどりに、飾られていて、先住民の文化が取り入れられている



カナダの校庭はとても広い



生徒一人一人が主体となって活動していることが多い

一生の宝物

鳥山中学校 松尾 由菜

小学生の時の卒業式の作文。『海外に行って英語で日本文化を伝えたい』私はそう書きました。昔から日本伝統の茶道を習っていた影響で、文化について興味がありました。中一だった去年の二学期の終わりに教室の後ろに貼ってあったポスターを見て、これは夢を叶えるチャンスだ、そう思いこの派遣に応募しました。一次試験に合格し、二次試験の発表の日、一日中ソワソワし、家に帰って即座に結果を見ました。自分の受験番号を見た瞬間、跳びあがりました。あと派遣まで五ヶ月もあるなと思っていた四月から九月まではあっという間でした。

ついに来たその日。長いフライトを終え、待っていたのは私たちの名前が書いてあるカードを持ったバディーたちでした。その光景を見ると同時に、言葉の壁への不安も高まってきました。しかし、バディーたちは、私たちでもわかるように簡単な英会話で話してくれて、急にその不安もなくなりました。

次の日、日本から持ってきた茶道の道具を見せると、Kami は喜んでくれて興味津々でした。日本に住んでいる私たちは、珍しいと思うことは少ないと思います。実際にお茶を点でて見せると、「What name is it?」そうたくさん聞いてくれました。お茶菓子として砂糖でできたゼリーを見せると、それを抹茶の中に入れてようとしました。これも一つの文化の違いだと感じます。海外では紅茶に砂糖を入れるのが普通です。でも、日本で抹茶に砂糖を入れることはありません。こうしたやりとりをしていくうちにたくさんの日本の文化を伝えることができました。文化のことだけではなく、様々なアクティビティを通していくうちに、バディーの友達だけではなく、クラスメイトなどたくさんの友達をつくることができました。

最後には、「まだ帰りたくない」「もっといたい」という思いが強くなってきました。このように思えたのはみんなのおかげです。この派遣は、私にとって一生のかけがえのない宝物です。派遣は行って終わりではありません。これから日本に来るウィニペグの友達のためにもっと全力を尽くしたいです。



ホームステイで気づいたこと

～カナダで体験したこと～

登校はスクールバス！！ CA



学校は日本よりずっと自由で教室もカラフルでした。英語での授業だったので理解はできませんでしたが、クラスメイトの子たちは積極的に手をあげたり、一番印象的だったのは多国籍なこと。全員が違う国籍で肌の色も髪の毛の色も目の色も全員が異なっていました。でもみんな仲が良く、楽しそうな雰囲気でした。



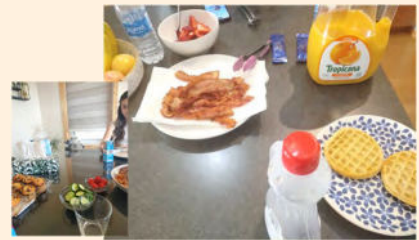
家がとても広い！写真には見えませんが、地下にもとても広い部屋がいくつもあります！！ベッドもキングベッドでホテルのようでした。



JP

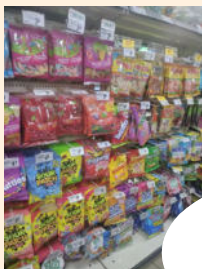


パートナーのKamiです。フランスとスペインのハーフと言っていました！！

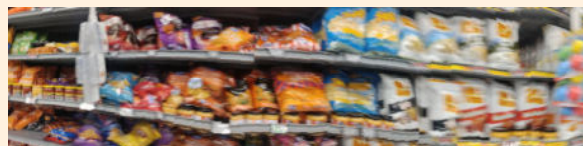
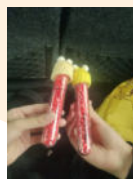


朝ごはんはほぼビュッフェで自分達の好きなものを選んでいました。

カナダのお菓子 CA



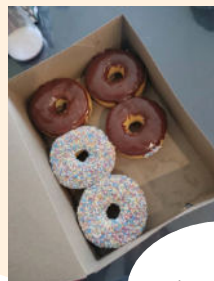
価格が高い



売り場が広い



とにかく大きい



カラフル！！

カナダのお菓子は日本に比べてビッグサイズです。日本の二倍以上はあります！！その分、売り場も広くて見るだけでも楽しい気分になります。ポテチなど味の展開も多く、食べても飽きません。

ポテトチップスはLaysというメーカーが多く、大きさも様々でした。大体5ドル以上はします。比較的日本でも食べやすいと感じました。

異世界での 10 日間

千歳中学校 今井 咲愛

私の大切な 10 日間。それは世田谷区の代表としてカナダに行ったことです。小さい頃から海外、英語に興味があり、よくカナダに住む日本人の YouTube を見ていました。学校で先生から海外派遣についての説明があった朝学活の時、「やるしかない」と心に決めました。

6 月から 9 月まであっという間に過ぎ、気づいたら出発の日。カナダでやっていけるのか心配な面もあったけれども、楽しみの気持ちで胸を弾ませていました。初日はバンクーバーで過ごし、次の日、飛行機に乗りウィニペグへと出発。到着して、空港のエスカレーターを降りると、私の名前が書かれた紙を持った Evelin が立っていました。「やっと会えた！」と走って駆け寄ると Evelin はハグをしてくれました。カナダでは当たり前になっていたハグも日本に帰国してからは一切せず、小さなことでもかけがえのない貴重な体験だとわかりました。歓迎夕食会の時、いつも画面上で見えていた学校が広がっていて、私たちのパートナーたちがそれぞれ国籍が違って当たり前のように仲良く接していた様子に圧倒され、本物の多様性というのを知らされました。肌や瞳、髪の色などの外見や生まれた地域が違ってお互いを認め合っているのは、移民の国「カナダ」の良さだと実感しました。



良いスタートで始まった海外派遣で、驚いたことがいくつかあります。一番印象的なのは現地の人の言動・行動です。ホームステイ先の家族みんなで朝ご飯を食べに行ったとき、ホストマザーが店員の方に私を「日本のゲストだ」と紹介してくれて、果物をサービスしてもらいました。他にも、授業中に食事をしてもよかったり、学校からお菓子を貰えたりと、日本ではあり得ないことだらけでした。

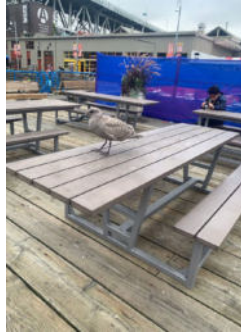
二つ目は、言語の壁は自分次第で無くせるということです。カナダで外国の人に囲まれて生活する中で、最初は自分の気持ちが上手く伝えられないことに不安を抱えていましたが、笑顔で身振り手振りを使えば相手も理解しようとしてくれました。そうすると、翻訳アプリがなくてもある程度の意思疎通はでき、「外国人のノリ」も分かるようになりました。これ以外にもレストランで提供される食事の量や、野生動物、自然など、全てが新しい発見でした。

時間はあっという間に過ぎ、帰国の日が近づいていました。Evelin たちと一緒にいたのはほんの数日だったけれども、中身の濃い大切な思い出です。たったの 10 日間でも生涯ずっと暮らしていた日本ではないカナダで生活をし、カナダでしか得られないいろいろな体験ができました。それもこの海外派遣に関わってくださっている皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。私たち世田谷派遣団と、ウィニペグ生徒の交流はまだ続きます！
See you in January!

～私の海外派遣～

野生動物

通学中发现したリス バンクーバーにいた鳥



カナダの暑過ぎず乾燥した気候
だからこそ生きられる動物

日本では見られない動物たち

鹿

カナダグース

白熊



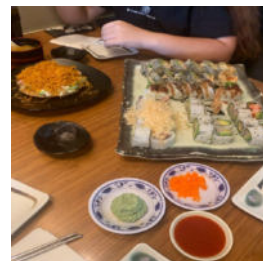
カナダで驚いたこと

- 生き物がいても反応しない。
→ 大量の蜂
- 野生の犬や猫はいないがうさぎがいる。



カナダにはたくさんの
自然や動物がいる。

- 生魚があまりおいしくない。
- カリフォルニアロールがほとんど。
- 学校 • 家の造り • 現地の人の行動etc…



ゴミ分別やリサイクル
などをして自分たちで
環境を守っている。



ホームステイ先の友達に出会って

千歳中学校 佐藤 花音

私は、飛行機から派遣先のウィニペグの街を見下ろした時に、「本当にこれからホームステイが始まるんだ」と実感してワクワクしました。実際にカナダで過ごしてみて印象に残ったことは、大きく二つあります。

一つ目は学校です。日本と違って黒板ではなくホワイトボードを使っていたり、机は一人一個ではなく、5人くらいのグループで一つでした。お菓子も自由に持ってきて食べていました。また、授業ではアップルパイを作ったり、学校の隣の公園でクラスのみんなど遊んだりしていました。生徒たちが主体的になって取り組めるような学校で、私はとても好きになりました。



二つ目は、ホームステイ先の友達との交流です。私は、英語が得意ではないのですが、自分が知っている単語を並べて、身振り手振りで必死に伝えたいことを表現しました。そうすると、相手に伝わる時がありました。そのときはとても嬉しかったです。また、慣れない生活で戸惑うことも多くありましたが、ホームステイ先の友達が「It's OK.」と言ってくれたときは、すごく安心しました。



私は、カナダの人の「大丈夫だよ」に多く救われました。私は、そのように人を温かく受け入れる心の広さが好きになりました。それは、カナダ自体が移民の方たちが集まる国であり、それを受け入れてきたからなのではないかと私は思いました。

私は、カナダに行く前は、少しのミスで落ち込んだり傷ついたりすることがありましたが、世界規模で見ると、自分の悩み事が米粒よりも小さな出来事であるように感じました。私の今後の人生にとって貴重な経験になりました。

この海外派遣事業に携わってくださった皆様、本当にありがとうございました。

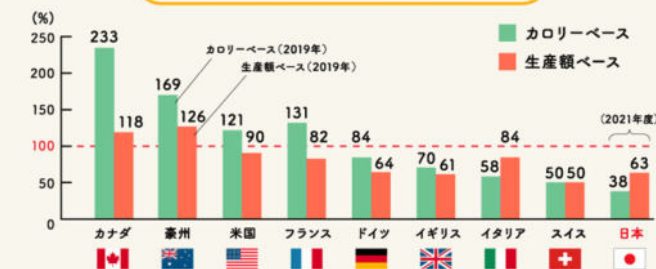
カナダの農業

カナダのスーパー

私はカナダのスーパーに実際に行ってみてカナダで作られた野菜や食品を多く見ました。



我が国と諸外国の食料自給率



資料：農林水産省「食料自給率」、FAO「Food Balance Sheets」等を基に農林水産省で試算。（アルコール類等は含まない）
 注1：数値は令和（即ち令和）米（カロリーベース）及びイギリス（生産額ベース）については、各政府の公表値を掲載。
 注2：畜産物及び加工品については、輸入原料及び輸入原料を考慮して計算。

参考：JAグループ「【国産DAY】アゲていこう！食料自給率」
<https://life.ja-group.jp/kokusunday/kaisetsu02>

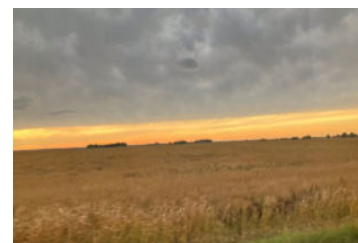
カナダの取り組み

食料の自給自足は、カナダにおける農業の基本的な役割の一つであり、国内で生産される食品によって国民の食の安全が保障されています。

※参考資料閲覧日：令和6年10月20日

小麦、大麦を中心とした畑作、家畜、酪農の混合農業が特徴。また、世界2位の国土面積を有し、広大な平野が広がっているところも特徴です。

参考：農林水産省「食料自給率のお話（連載）その6：都道府県別食料自給率と食料自給力指標」
https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/ohanasi01/01-08.html



参考：チバニアン兼業農学校
 「カナダ農業の魅力と未来への挑戦」
<https://chibanian.info/20240504-32/>

カナダ派遣団代表として

喜多見中学校 上田 憲翔

僕は、人生で初めて交換留学というものを行った。行く前からしっかりと、“世田谷区代表”という意識を持って取り組んだ。カナダ“バンクーバー”に到着。バンクーバーでは、一日観光をし、世界の文化を知った。国外に行くとありがちな“時差ボケ”が来て食欲が全く無かった。その日はバンクーバーのホテルに泊まった。翌日バンクーバーから離れ、“ウィニペグ”へ行った。ウィニペグでは、ホストファミリーの人に会い、歓迎夕食会に参加して、“Linden Meadows school”で友達がたくさんできた。そして、ホームステイの家に着いた。とても大きかった。その日は、飛行機に乗って疲れていたため、シャワーを借りてすぐに寝てしまった。ステイ先では、海外の匂いと共に眠りについた。翌朝、マーカスの友達の家に行った。とてもノリの良い人で明るく僕に接してくれた。僕は、初めてのことであたふたしていた。何せ現地のカナダ人だからだ。僕は、自分なりにコミュニケーションをジェスチャーなりカタコト英語で頑張った。日本国外どこに行っても自分の目標になるのはやはり、“コミュニケーション能力”だと僕は思う。なぜなら、伝えることは、自分の気持ちをわかってほしい、共有したいからではないだろうか。その中でも、スキンシップがあるのだと思う。



そして、行く前からずっと練習してきた、「南中ソーラン」「Good time」。最初は、僕の号令で、ソーラン節の「かまえ」を始めるので内心とても緊張していた。前列の小さい子は、びっくりしないだろうか？トラウマにならないだろうか？しかし、そんな時こそ、信じ合える仲間（派遣メンバー）を見て、自信とワクワクが湧いてきた。そして始まる。結果としては、大成功だった。最後にやり切った後にとてもやりがいを感じた瞬間だった。この体験を経て、慣れていない言葉を使ってコミュニケーションを取り、とても貴重な体験であったし、大切な友達もできた。11日間本当にありがとうございました。

カナダのゴミ箱🗑



日本のよりもゴミ箱が
分かりやすい！



日本のゴミ箱



日本のは、いろいろ分けられていて分かりやすいが、
今あまりゴミ箱は、見ない！

カナダのゴミ箱にはなぜイラストがついているか？ それは、SDGsに関連しているのか？

カナダでは違う...世界で定めたSDGsと、
+a に考えた政策がされています。
僕が行ったウィニペグでも、ゴミ箱がどこに行っ
てもあったり、イラストなどもありました。
他にも現地の人に聞いたところ、“ポイ捨て防止”
とも話していました。

カナダの持続可能な開発の優先事項を定めた「2016～2019年連
邦持続可能な開発戦略」は、「SDG7(エネルギーをみんなにそして
クリーンに)」、「SDG13(気候変動に具体的な対策を)」、「SDG14
(海の豊かさを守ろう)」、「SDG15(陸の豊かさを守ろう)」など、多く
のSDGsとリンクしています。
つまり、人々が過ごしやすい街づくりをしている事がわかります。

参考・出典：閲覧日 令和6年10月20日：

・Government of Canada「The 2030 Agenda for Sustainable Development」
https://www.international.gc.ca/world-monde/issues_development-enjeux_developpement/priorities-priorites/agenda-programme.aspx?lang=eng
・Government of Canada「Canada and the Sustainable Development Goals」
<https://www.canada.ca/en/employment-social-development/programs/agenda-2030.html>

「ホームステイで繋がった絆」

世田谷中学校 下平 隼佑

私はカナダへ派遣されたことで、言語が完全に通じなくてもコミュニケーションを取ることができることを知りました。

それがわかったのは、ホームステイが始まって5日後のことでした。その日、私たちはオーク・ハンモック・マーシュという、東京ドーム420個分の広さがある湿地を訪れました。そこで私は、日本の派遣団のメンバーやカナダのメンバー、合わせて10人ほどでカヌーを漕ぎました。私はカヌーに一度も乗ったことがなく、少し不安でした。乗り込むときも、カヌーのバランスが崩れ、驚きました。カヌーを漕ぐのはかなり力が必要で、最初はみなバラバラに漕いでいたため、うまく進みませんでした。その時、私はチームワークが必要だと思い、「せーの」と掛け声をかけてみました。すると、一人、二人と一緒に掛け声をかけてくれて、カナダのメンバーも真似してくれました。掛け声はしだいに「Say Noah (Noahは私のバディの名前)」に変わり、その面白さでみんなの元気が出て、うまく漕ぐことができました。私は、なぜ会って数日しか経っていないのに、こんなに団結できているのか不思議に思いました。帰国した今、ホームステイが日本のメンバーとカナダのメンバーを結びつけてくれたと感じています。



私の場合、最初は英語で話し合うことがうまくできず、翻訳アプリを使っていました。しかし、ホームステイ先で話す機会が増えるにつれ、だんだん上手に話せるようになりました。自分だけでなく、派遣団の他のメンバーも同じ体験をしたと思います。うまく話せるようになったのは、話を聞いてくれる人のおかげでした。カナダの人たちは発音の仕方が違うにも関わらず、しっかりと聞き取ってくれようとしてくれて、とても嬉しかったです。私のバディであるノアも、私の発言に答える時に「はい」や「うん」といった簡単な日本語を使ってくれて、時には翻訳アプリも使って日本語で話そうと努力してくれました。私も頑張っけて聞き取ろうとしました。こうして互いに理解、尊重し合うことで、コミュニケーションを取れたのだと思います。

派遣前は、英語をしっかりと話せるのか、とても不安だったけれど、カナダでの経験を通して、お互いに尊重し、思いやることで人と繋がれるということがよくわかりました。

この経験を生かして、私はこの先、言語や文化の異なる人同士がコミュニケーションを取り合える環境づくりに関わりたいです。

ウィニペグで印象に残ったこと



バディ



彼の名前は、ノア・カプテゲインといい、父がアフリカ系、母がロシア系のハーフでした。彼はフランス語も話せると言っていました。普段は英語で話していました。すでに卒業しているリンデン・メドウズ・スクールでも後輩たちからも人気でした。

ホームステイ先の様子



家はとても大きく、初めは、何がどこにあるのかわからず、その度に聞いていました。写真は自分の寝ていた部屋で、ベッドも大きかったです。食事は、朝はあまり食べず、昼と夜によく食べるようでした。

学校で気付いたこと



朝はあまり早起きではなく、学校の授業も日本と比べ、始まるのが遅かったです。机の位置は日本と違い、丸いテーブルなどを使っていました。授業中にお菓子を食べたり、カードゲームなどをしていて、授業の受け方も自由でした。

感想



最初はなかなかうまく話し合えず、コミュニケーションが取りづらかったけど、ホームステイをしていくうちに慣れてきたし、ペアの友達とも仲よくなりました。ホームステイは海外の特徴を知るのに役立ち、現地の人との絆を深めてくれました。

引率者より



異文化交流の大切さを実感 –ウィニペグでのホームステイ体験を通して–

砧中学校 校長 加藤 敏久

私は、教育において最も大切なことは、多様な文化や価値観を尊重し、理解しようとする姿勢だと考えています。その考えが確信に変わったのは、カナダのウィニペグで体験したホームステイによるものでした。この体験により、これからの新しい学校教育のあり方はもちろん、広くたくさんの生徒たちに伝えたい多くの教訓を得ることができました。



まず、ウィニペグに到着したとき、フラットで広大な大地と豊かな自然、そして親切でフレンドリーなカナダの人々に圧倒されました。そして、左の写真のように、街中や施設に多様性を尊重する工夫があることに驚きました。私を受け入れてくれたナイジェリアにルーツがあるホストファミリーは、私を家族のよう

に温かく迎え入れてくれました。言葉の壁があるにもかかわらず、翻訳アプリなども駆使しつつ、広い心で辛抱強くコミュニケーションを取ってくれました。異なる文化や生活習慣を共有し合う楽しさと英語がスムーズに話せることの大切さを実感しました。世田谷区の生徒たちも、おそらく私と同じ思いを抱いたことでしょう。

また、リンデン・メドウズ・スクールにおいても、人種や性別にかかわらず、教師や生徒同士が互いの意見やちがいを尊重し合い、折り合いをつけながら共に成長する環境をつくっていました。校内のあちこちに日本のことが紹介されていました。授業では、教師が生徒一人ひとりの個性を尊重し、多様な視点を受け入れる姿勢が感じられました。先住民をはじめ、多文化共生が進むカナダでは、様々なバックグラウンドを持つ生徒



たちが互いに学び合う環境が整っています。特に、世田谷区の生徒たちのアトラクションに全校の子どもたちが参加し、国境を越えた交流ができたのはお互いにとって大きな成果でした。このようなウィニペグの教育のあり方は、私たちが今後取り組むべき課題であり、学ぶべきモデルだと思いました。

私はもちろんのこと、世田谷区の生徒たちも引率した教師も、この経験を通じて得た教訓を今後の考え方や生き方に生かしていきます。そして、多様な文化や価値観を尊重し、互いに学び合い、自らの可能性を最大限に発揮できる世田谷区の学校教育に取り組んでいきます。

The World Is Our Classroom! (団スローガン)

駒沢中学校 主任教諭 張元 文子

All human beings are born free and equal in dignity and rights.

カナダの紙幣にも描かれる人権博物館にかかげられる言葉である。この派遣を象徴する言葉だと私は感じた。

カナダ派遣団は、事前学習から自分の意見をもち、積極的に交流し、時にその話し合いは白熱した。当然、派遣期間中の好奇心・探究心は言うまでもない。最初こそ緊張と慣れない環境への不安もあっただろう。中学2年生が家を離れ、しかも外国で11日間生活するということ



がどれだけの大冒険だっただろう。しかし、多少の予定変更やハプニングにもすぐに慣れ、お互いに助け合い、気遣い、次のことに向かっていく強さが見られた。

ホームステイが始まると、さらに私たちの心配は無用だったことに気づかされた。街で数人のグループとすれ違うことがあったが、ファミリーと和やかに過ごし、私たちを見つけると笑顔で駆け寄り最新の体験を早口で数多く報告してくれた。カナダの先生たちは生徒たちへ「携帯電話はカメラとしてのみ使いなさい。翻訳をしてはいけません。言葉が分からなくても日本語と英語で助け合って話すことが大切です。」と声をかけていたが、バディーと行動を共にし、車中もアクティビティ中も充実していた。BBQの隣でバレーボールが始まったり、バスの中でカントリーロードの大合唱が起こったりしたのはその証拠ではないだろうか。



事前活動の大半を使ったアトラクションも成功裏に終わった。始まった瞬間から会場は熱気と歓声で包まれ、終わったあともしばらくは日本の生徒たちも熱気を帯びていた。一瞬にして日本の派遣団の生徒たちはリンデン・メドウズ・スクールの超有名人になっていた。言葉や文化など関係なく自由で平等だということを体現していた。

帰国時のトロントからの乗り継ぎで「このまま便が遅れたらあと少しカナダにいられるのに」という言葉からはハプニングに動じることなく、むしろ帰国を惜しむ姿が見られた。さらに成田空港では、「ホームステイファミリーと別れるときももちろん悲しかったけど、明日からこのメンバーと会えなくなるのが一番寂しいな」という一人の言葉に周りのみんなが共感していた。

最後に、カナダをめぐる広大なクラスルームで派遣団の生徒のみなさんの大きな成長を見守ることができ嬉しく思います。また、この派遣を通して多くの方々と出会うことができたことに感謝しています。ありがとうございました。

多様性の尊重と国民としての一体感

船橋希望中学校 主任教諭 須田 のり子

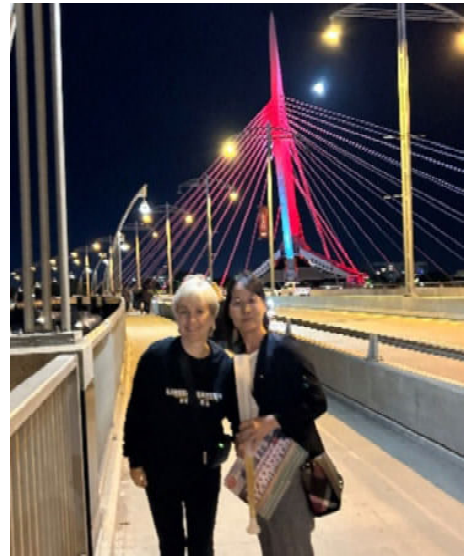
今回の派遣で感じたのは、「多様性を尊重しつつ、国民としての一体感を持つ国」としてのカナダである。古くから移民を多く受け入れ、先進国の中でも異例の労働人口割合を誇るカナダの中でも最も先住民族の割合が高いマニトバ州では、思っていたよりも多様性を体感する場面が多かった。

受け入れ校のリンデン・メドウズ・スクールでは、様々な顔立ちの生徒とそれを支える様々なバックグラウンドを持つ教員がおり、校内の至るところにいろいろな言語を紹介する掲示物があった。また、今回の受け入れのために日本文化を紹介するコーナーがあちらこちらに用意され、5歳児が覚えてたの日本語「こんにちは」「ありがとう」を披露しにきてくれるなど、幼少期から「違うこと」を自然に受け入れる土壌があり、日本に比べ圧倒的に多文化理解の意識が進んでいるのが実感できた。

それが最も顕著に感じられるのは先住民族に対する敬意の表し方で、今回の派遣においても先住民の工芸（ビーズ）、音楽（太鼓）、料理（イーストを使用しないパン）、踊りなど、生徒が先住民の文化を経験する機会が多くあった。講師はその文化そのものだけでなく、背景にある考え方、例えば色の表す意味や「円」を大切にする思想などにも触れ、迫害の歴史を反省するだけでなく共に歩む姿勢が教育現場ではぐくまれていた。



シリアの内戦から逃れる途中で亡くなった少年を、難民の3000足の靴で表現した作品。靴以外何も持たずに逃げるしかない難民の苦悩を伝えている。



Provencher Bridge にて
Michelle 副校長先生と

日本文化センターでは第二次世界大戦時にカナダ在住の日系人が迫害された歴史を学び、過去の辛い歴史を乗り越えてきた人々の思いが日本語を話せない日系3世、4世の人たちに引き継がれていた。ウィニペグの街の中でもとりわけ美しい建築が特徴の人権博物館では、ユダヤ人や先住民などの迫害の歴史を学んだ。館内は階段が全くなく螺旋状のスロープが建物を取り囲むように設置されており、館内ツアーは館内を巡るにあたり特別な配慮が必要かどうかの確認から始まった。展示そのものだけでなく、男女の区別のないトイレなど色々な面で人権に関して考える機会となった。日本文化センターも人権博物館も、現

在の多様性を受け入れるカナダだからこそその展示であったと思う。

様々な背景を持つ人々がカナダ人としての一体感をどのように得てきたのかは、私たちには想像もできない。しかし、毎朝学校で流れる国歌“O Canada”を誰もが静かに傾聴する様子を見たり、もともとは植民地を加えてカナダ連邦が誕生したことを記念する7月1日のカナダデーが、先住民への配慮から制定の歴史とは別にカナダ国民としての一体感を感じる日として受け止められるようになっていくと聞き、多様性を認めつつ国民としての一体感を持つカナダから学べることは多いと思う。受け入れにあたり多大な尽力をいただいた皆様に心からのお礼を申し上げたい。

受入事業について



受入までのスケジュール

項 目	日 程	時 間	会 場	内 容	出席者
第 1 回 受入準備会	12 月 1 日 (日)	13:00 ～17:00	梅丘パークホール	(前半)オリエンテーション (後半)生徒準備作業(役割決 め・ウェルカムボード作成) ※前半のみ保護者参加	生徒 保護者 派遣引率者
第 2 回 受入準備会	1 月 12 日 (日)	13:00 ～14:00	北沢タウンホール ミーティングルーム	・受入のしおりについて ・受入前の最終確認	生徒 保護者 派遣団長

受入日程 (世田谷区滞在：令和 7 年 1 月 27 日～2 月 8 日)

日 数	月 日	時間	内容
	1 月 25 日(土) 1 月 26 日(日)		ウィニペグ市中学生親善訪問団(以下ウィニペグ市訪問団) 来日 ウィニペグ市独自プログラム(京都ツアー)
1	1 月 27 日(月)	午前 午後 18:15-20:15	ウィニペグ市独自プログラム(京都ツアー) 区事務局 ウィニペグ中学生団を新幹線駅で出迎え ホストファミリー対面式及び歓迎夕食会【世・HF・世引率】
2	1 月 28 日(火)	午前 14:00-16:00 夕方	ホストの所属する中学校へ一緒に登校・給食 高齢者クラブとの日本文化体験交流【世】 ホストファミリーと過ごす
3	1 月 29 日(水)	午前 15:00-16:00 夕方	ホストの所属する中学校へ一緒に登校・給食 副区長・教育長表敬訪問【世・団長】 ホストファミリーと過ごす
4	1 月 30 日(木)	午前 午後 夕方	8:30 区役所集合⇒国立科学博物館見学【世】 上野動物園見学【世】 ⇒17:00 区役所着 ホストファミリーと過ごす
5	1 月 31 日(金)	10:00-11:30 13:00-14:00 夕方	せたがや国際交流センターワークショップ(テーブル茶道)【世】 区議会表敬訪問【世・団長】 ホストファミリーと過ごす
6 7	2 月 1 日(土) 2 月 2 日(日)	終日	ホストファミリーと過ごす

日 数	月日	時間	内容
8	2月3日(月)	終日	【ウィニペグ市中中学生団のみ】 8:30 区役所集合 (※HF 送り) ⇒川場村へ出発 川場村見学(村めぐり、竹灯籠作り体験) ⇒区民健康村宿泊
9	2月4日(火)	午前 午後 夕方	【ウィニペグ市中中学生団のみ】 川場村見学(スノーシュー体験、蒟蒻作り体験) 川場村出発 ⇒17:00 区役所着 (※HF 迎え)・ホストファミリーと過ごす
10	2月5日(水)	9:20-11:20 14:00-16:00 夕方	8:30 区役所集合 ⇒東京消防庁池袋防災館見学【世】 リコーブラックラムズ東京とのラグビー交流【世】⇒17:00 区役所着 ホストファミリーと過ごす
11	2月6日(木)	午前 14:00-16:00 夕方	ホストの所属する中学校へ一緒に登校・給食 世田谷美術館見学・ワークショップ(掛け軸作り)【世】 ホストファミリーと過ごす
12	2月7日(金)	午前・午後 17:15-19:15	ホストの所属する中学校へ一緒に登校・給食 お別れ夕食会【世・HF・世引率】
13	2月8日(土)	午前 12:30 18:35	ホストファミリーと過ごす 区役所集合(※HF 送り)⇒見送り式【世・HF・(世引率)】 ウィニペグ市中中学生親善訪問団 帰国(成田)

※参加者凡例:

【世】=世田谷区中学生団

【HF】=ホストファミリー

【世引率】=派遣引率者

※ウィニペグ市中中学生団は全ての行程に参加。ただし、各学校の校外学習日は校外学習に参加。

受入の様子



歓迎夕食会



高齢者クラブとの日本文化交流



学校体験



給食体験



副区長・教育長表敬訪問



せたがや国際交流センター
ワークショップ（テーブル茶道）

受入の様子



区議会表敬訪問



群馬県川場村見学（区縁組協定自治体）



リコーブラックラムズ東京との
ラグビー交流



世田谷美術館ワークショップ
（掛け軸作り）



お別れ夕食会



区役所での見送り

生徒からの報告（受入）

（感想文・まとめスライド）

テーマ「受入で印象に残ったこと・学んだこと」



パートナーを受け入れて

桜丘中学校 高橋 璃彩

この受け入れで印象に残ったことは、パートナーたちと日本文化を体験したことです。浴衣を着たり、折り紙、盆踊り、茶道、掛け軸作りなどを体験しました。特に、掛け軸作りでは、自分で好きな色や絵を選んで作ったため、オリジナルの掛け軸がとても気に入ったと言っていました。週末は、他のバディと浅草で着物を着て仲見世通りを歩き、屋台で食べ物を食べたり、おみくじなどをしました。

私は、パートナーである Sienna と相部屋だったため、自分がウィニペグでホームステイした時よりも二人で会話をするが多かったです。最初は、喋らないとお互い空気が重いと思ったため自分から積極的に喋りかけていましたが、日本語ではもちろん通じないため、英語で話を展開させるのがとても難しかったです。お互い一言で会話が終わっており、Sienna も、初めての空間で過ごすためとても緊張しているのがわかりました。しかし、段々と緊張もなくなっていき、自分も話の展開がしやすい話題は何かとよく考えて喋りかけるようにしました。



4日間だけでしたが、自分の学校に行く日がありました。私のクラスには帰国子女がおり、授業の内容などを説明するのをサポートしてくれましたが、授業中ずっとそばにいるということは難しかったため、翻訳機を使用しました。特に初日は、クラスメイトも初めましての相手だったため、緊張していた様子で、直ぐに打ち解けることが難しかったです。授業中は日本語がわからないので退屈そうに



している時間もあったため、私が Sienna の立場になっていたら同じ状況だったのかなと思い「好きなことをしていいよ」と英語で伝えました。

あっという間に時が過ぎ、気づいたら最終日になっていました。不意に「明日からもういないんだ」と考えてしまい、寂しくなりました。お別れをする際、お互い涙を流しながらハグをして「Please come back to Japan again!!」と言い見送りました。

ぜひまた高校生になってからも留学生を受け入れる機会をつくり、今回学んだことを生かして日本の魅力を伝えたいです。この派遣と受け入れプログラムを支えてくださった区の方々や引率の先生方に心から感謝しています。そして、派遣メンバー13人と過ごした時間が大切な思い出のひとつとなりました。ありがとう!!!

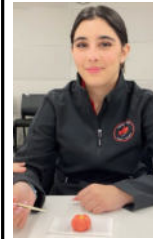
日本文化を体験

浴衣着付け体験



I like this color!!

テーブル茶道



折り紙



新聞紙で兜を作った。

着物着付け

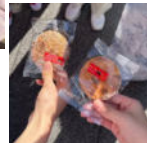


掛け軸作り

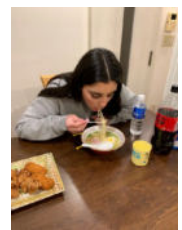


食

お煎餅



焼きそば ラーメン

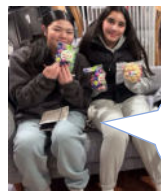
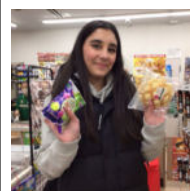


いちご飴



delicious!

コンビニ



唐揚げやラーメン、焼きそばが特に好きだと言っていました。

アイスの実とメロンパンが特に好きだったそうです。

Just「じゃあね」

緑丘中学校 中島 彩

「初めまして」のスタートから、「じゃあね」であつという間に終わってしまった2週間のカナダ派遣。派遣の次には、カナダの生徒の受け入れが待っていました。彼らが日本に来ることを待ちに待っていた9月から1月までの4ヶ月間は、私の人生の中で一番ワクワクしていた時間だったと思います。私のペアのIvyとは、日本に来るまでの間、学校のことや家のことなどを話し、時差が14時間あっても私たちの友情はカナダにいた時のまま、ずっと変わりなく続いていました。

私は、受け入れの時も派遣の時と同様にたくさんのことに不安を抱いていました。“しっかりとコミュニケーションを取ることができるのか”、“家でも学校でも楽しんでもらえるのか”など、不安で仕方ありませんでした。しかし、Ivyが実際に日本にやってきた時、想像以上に計画していたことなどを楽しんでもくれました。彼女のバディとしても、日本人としてもとても嬉しかったです。

Ivyは日本語が大好きで、私は英語が大好きなので、この受け入れの13日間お互いの言語を教え合いました。受け入れの後半には、Ivyは、英語の発音や私が知らなかった英単語まで教えてくれるようになりました。お互いの言語を理解し合いコミュニケーションを取り合うことで短い時間の中でとても深い友情を築くことができました。

私たちの合言葉は、「じゃあね」です。各々の部屋で休む時もトイレに行く時も必ずその言葉を言います。「じゃあね」には“また必ず会おう”という意味が込められています。Ivyの「じゃあね」は、このような意味を理解しながら口にしているかのように聞こえました。私がカナダに行った時に教えた「じゃあね」を日本でも使ってくれたことで、言語や文化が異なっても変わらないものは必ずあるということに改めて気付かされました。

日本での受け入れでは、鎌倉や上野動物園、ディズニーランドに行き、短い2週間をとっても濃い私の宝物にすることができました。今まで海外の人とベストフレンドになるとは夢にも思っていませんでしたが、国を超えて大きな海を超えて私たちが会える機会をつくってくださった全ての皆様に感謝します。本当にありがとうございました。またいつかどこかで再会できることを心の底から願っています。

No「さようなら」。Just「じゃあね」。





受け入れ事業を通して



他国で多文化を持つ私たちが
こうして出会うことができた
のは**奇跡**だったと思います。



これからも人との繋がりを
大切にして、普段から日本
と海外の架け橋のような存在
でありたいです。

2週間の受け入れ事業で得たこと

緑丘中学校 溝下 結己

派遣事業を通して経験したウィニペグでのホームステイはとても貴重な時間でした。ウィニペグでのホームステイ生活があったからこそ、ホストファミリーとしての役割をより意識することができました。そのため、私のバディである Ari を迎えるにあたり、日本の文化や生活習慣と一緒に過ごす上でどのように伝えていこうかと私は悩んでいました。私は、Ari が快適に日本で過ごし、日本はとても良い場所だったと思ってウィニペグに帰ってもらおうということが一番だと考えました。そのため、彼が快適に過ごせるよう、部屋の準備や休日の予定などの設定を入念に行いました。

Ari の滞在中は、彼が行きたいと言っていたカピバラカフェや豪徳寺、日本の象徴でもある渋谷のスクランブル交差点、スカイツリーなどに行きました。彼がとても楽しそうな様子だったので、彼が日本の魅力を感じてくれたことがわかり、日本人として嬉しく思いました。また、同じ派遣メンバーである人たちとそのバディで、カラオケや、よみうりランド、下北沢などにも行き、思う存分日本を満喫してもらいました。日本ではほとんどの地域で治安が良く、犯罪も少ない国ですが、ウィニペグでは夜間の外出は、犯罪に巻き込まれるリスクが高く、日本の治安の良さに感心したと Ari は言っていました。そして、どこに行きたいかなどをはっきりと伝えてくれたので、私は、どこに行きたいのかということを経時に理解して多くの場所に Ari を連れて行くことができました。その上で、日本人の周りの人の予定に合わせたり、遠慮したりする習慣との違いから、これが文化の違いなのかと実感することができました。このようなことから日本の良さも再認識することができたのではないかと感じました。

私はこの経験を通じて、国際交流の大切さを改めて実感しました。国際交流が進む現代において、異文化の理解やコミュニケーションを図っていくことが重要視されて

います。私は今後、今回の経験を生かして、さらに多様な文化を持つ人と交流をすることで、より広い視野を持った人間になりたいと考えて



います。さらには、今回の経験を地域の方々や学校にも広げていき、異文化理解の大切さを伝えていければと思っています。今回の受け入れ事業での経験は自分自身の成長につながったと感じています。

最後になりますが、このような機会を設けていただいた皆様、そしてサポートしていただいた皆様、本当にありがとうございました。これからもウィニペグとの交流が長く続くことを願い、締めくくらせていただきます。ありがとうございました。

Ariと2週間を過ごして…

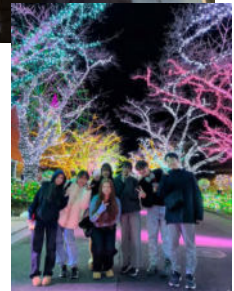
平日の夜…他のペアと一緒にカラオケや、よみうりランド、下北沢へ

休日…渋谷や浅草周辺を見て回り、Ariが行きたいと言っていたカピバラカフェにも行った。



その結果…

彼の楽しそうな様子から日本の魅力が伝わってとても嬉しいと私は感じた。また、改めて日本の良さを実感することができた。



受け入れ事業を通して…

受け入れ事業での気づき

①日本の治安の良さ

→夜間に外出することが多かったが、ウィニペグでは犯罪に巻き込まれる可能性があるのであまり出歩かない。

②文化の違い

→Ariはやりたいこと、行きたい場所などははっきりと伝えてくれた。日本人は周りの人の予定に合わせてたり、遠慮したりする。この2つの違いが、日本とカナダ文化の違いだと実感した。

この経験をどう生かすか

→国際交流が必要不可欠となっていく現代で、今回の経験を生かして、異なる文化を持つ人々と交流をすることで、より視野の広い人間になりたいと考えた。

さらには、地域の方々や通っている学校に異文化理解の大切さを伝えたい。



交換留学で得た大切な友情と成長

駒留中学校 鈴村 玲奈

今回の交換留学を通じて、大切な友人と出会い、多くのことを学ぶことができました。受け入れ準備として、私は学年の友人に向けてウィニペグや Yeha についてのプレゼンテーションを行い、学校の展示会では模造紙 2 枚分の報告書を作成しました。これにより、学校の人々に今回の交換留学について深く知ってもらうことができました。また、生徒たちがウェルカムボードや英語での自己紹介、ネームプレートを用意してくれたおかげで、Yeha も緊張することなく、落ち着いてクラスに入ることができました。クラスを越えて廊下で話しかけてくれる生徒もあり、Yeha もとても嬉しそうでした。

Yeha が学校に来た際に最も大変だと感じたことは、授業への参加でした。日本語の授業を英語に訳して分かりやすく伝えることは想像以上に難しく、ジェスチャーや翻訳アプリを活用しながら工夫する必要がありました。しかし、翻訳アプリの直訳では意味が伝わりにくいことも多く、言い換えながら調整しました。Yeha が授業に参加しやすいよう常に工夫しながら行動するのは大変でしたが、うまく意味が伝わったときの喜びはとても大きかったです。

カナダには給食がなく、自分で好きなものを持参する文化があるため、給食の時間に班を作り、みんなで同じものを食べることが新鮮だったようです。また、クラスメートが積極的に Yeha に話しかけたことで、Yeha 自身も楽しそうに過ごしていました。

最終日には、学年レクリエーションを開いてもらい、学年全員からのメッセージが詰まった色紙を受け取りました。学年のみなさんや先生方、そして Yeha と仲良くしてくれた友人たちに、心から感謝の気持ちでいっぱいです。

初めのうちは Yeha も日本の生活に緊張している様子で、私のほうから話しかけることが多かったのですが、次第に慣れてくると Yeha からも話しかけてくれるようになり、自然と距離が縮まりました。一緒に東京観光をしたり、日本文化を体験したりしたことは、私や家族にとっても貴重な時間となりました。そして、Yeha が「日本が大好き」と言ってくれたことで、私がウィニペグで受けた温かいもてなしへの恩返しができるように感じました。

今回の交換留学を通じて培った英語力や挑戦する気持ち、ここで出会えた大切な仲間たちとの友情、そして、自分自身の成長を今後の人生に生かしていきたいと思います。



交換留学を通じた学びと成長



事前準備と受け入れの工夫

- ◆相手に伝えることの難しさ
- ◆異文化理解の大切さ



友情の深まりと気持ちの変化

- ◆挑戦する気持ちの重要性
伝える努力
- ◆恩返し
自分がしてもらったこと
- ◆国を超えた交流
一生の友情

ホストファミリーをやってみて感じたこと

梅丘中学校 新村 ちかる

昨年10月、派遣の事後報告で書いた感想文のテーマは『ウィニペグの人たちとの交流』で、最後の一文に「日本の文化を伝えるのも私たちの役目」と書きました。派遣の時とは違って、お互いを知っている状態からスタートした受け入れでは、より多くの交流ができました。

受け入れで特に印象に残っているのは、ウィニペグの生徒さんたちとの交流と、ホストファミリーの大変さです。

派遣時の反省点の一つに、翻訳機を介することが多く、あまりコミュニケーションが取れなかったことがありました。だから、受け入れでは直接話せるように英語を勉強しました。全く完璧ではなかったし、単語の羅列になってしまうこともたくさんあったけれど、ウィニペグの生徒たちが私の言いたいことを汲み取ってくれてとてもありがたく、改めてウィニペグの人たちの温かさに助けられました。

また、ホストファミリーをやってみて、想像以上に大変なのだなと感じました。家の中で準備することもあったし、学校生活や習い事など家庭外にも影響が出るので対応しなければならないことが多かったです。お互いを知らない状況で同じことをしてくれたバディと、ウィニペグのホストファミリーの方々に改めて感謝しました。

もちろん大変なことだけでなく、日本にいながらカナダのことを知ることができたり、英語の勉強になったりと楽しいことや学びになることもたくさんありました。私たち日本人も、普段日本の伝統的な文化を体験することがあまりないので、個人的にもたくさん良い経験をすることができたなと思いました。

この交換留学の経験を身の周りの人に伝えて、今後留学したいと思っている人やホストファミリーをやってみたいと思っている人へ情報共有したり、私自身、大学などで留学してみたいなと思ったので、自分の今後に生かしたりしたいと思います。





浴衣着付け体験



テーブル茶道体験



ワークショップでの
掛け軸作り



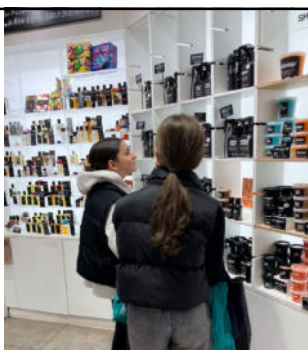
浅草で着物を着た

日本文化体験

- 主に団でのアクティビティや個人でのスケジュールなどで日本文化に多く触れた13日だった



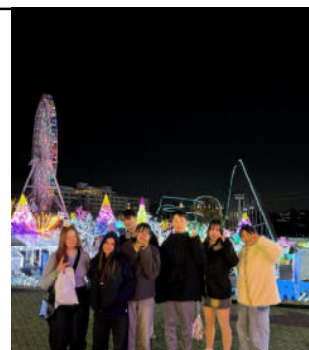
下北沢



原宿



明大前



よみうりランド

色々な所に行った

- 東京の色々なところに行って、伝統的な日本文化だけでなく、日常生活の中の日本文化も感じてもらった13日だった

交換留学受け入れを通して

富士中学校 岡林 佑青

僕は、この交換留学の受け入れを通して、日本語が伝わらない大変さと共に、自分の英語が伝わる嬉しさや文化の違いなど多くのことを感じ、学びました。

僕は受け入れ前に何が大変になるかなど、いろいろなことを調べておきましたが、いざ受け入れをしてみて、一番文化の違いで大変さを感じたのは、学校の受け入れの時でした。学校受け入れでは、普段、僕が受けている日本語の授業を一緒に受けるため、僕のパートナーだったオリンは日本語がわからないので「とてもつまらない」と言っていました。何回か学校に行くにつれて、授業はいつもどおりつまらなそうにしていたのですが、昼休みや、10分休憩の時間にクラスの友達とコミュニケーションを取ったり、一緒に遊んだりして楽しそうにしていた、嬉しいなと心から思いました。

僕が意外だったのは、オリンを含めて留学生の方たちにポケモンが好きな人が多かったことです。特に、オリンのポケモンの好き度は異常なほどで、オリンが来ている時に、合計5回ほど渋谷にあるポケモンセンターに行きました。ポケモンセンターでは主にポケモンカードをたくさん買っていました。僕もオリン



と一緒にポケモンカードをやりたいと思い、今回をきっかけに始め、オリンと対戦してみました。僕は全敗してしまいましたが、カードゲームと一緒にやっている時にはまるで日本語で一緒に話しているかのようで、言語の壁なんて気にせず心から一緒に楽しむことができました。本当に楽しかったです。

最後に、派遣、受け入れも合わせて、国境の越えた友達をつくり、共に過ごせて最高に楽しかったし、いろいろなことを学べて本当に有意義な時間となり、このプログラムに関係した方に感謝してもしきれません。これで派遣プログラムは終わりですが、この友情がなくなることはないし、これからも連絡を取れる手段もあるので、今回の交換プログラムが本番ではなく、これをきっかけにもっと国境の越えた友情を育てて行きたいと思いました。

国境を越えた友情



支える側の気持ち

玉川中学校 合志 俊太朗

僕は、この二週間、常にどうやったら楽しんでもらえるかということを考えていました。僕のバディは、東京で再会してから体調があまり良くありませんでした。急な環境変化に慣れない食事、それに加えて、自分の携帯電話を失くしてしまうなど、マイナスなことが続いていました。学校に行っても体調が優れず、保健室で寝ているなど、少しホームシックになっていました。そのため、僕は「いかに楽しませてあげられるだろうか」、「日本で楽しい思い出をつくってもらいたい」という思いでいました。事前にメールでやり取りをしていた食べたいものや行ってみたい場所などを昼間や夜などに分散させて計画を立てていました。

しかし、食べてみたいというお寿司やすき焼き、うなぎなど様々なものにトライさせてあげましたが、なかなか食べずにカナダで普段から食べているようなものでもあまり食べていないことに驚きました。そんな中、バディが一番食べたのは、ラーメンでした。一人前を完食し、満面の笑顔で「RA-MEN is good!」と言っていました。食に関しては、醤油や味噌、出汁など日本ならではの素朴な味が合わなかったのだと思いました。行ってみたいと言っていた、東京タワーやポケモンセンターに連れて行ってあげると、彼は、とても楽しそうにカードを選んだり、景色を眺めていたりしました。その中で僕は、彼について一つ気が付いたことがあります。それは、彼が「自然が好きである」ということです。滞在中、小田原城に連れて行ってあげました。すると、渋谷などとは異なり元気そうに走っていました。ウィニペグの自然の豊かさに比べ、東京のコンクリートと人混みの中に連れて行くよりも、高い建物が少なく、ゆっくりできるお城周辺が気に入ったみたいです。

僕は、この受け入れを通じて、支える側の気持ちがわかりました。いつもは両親や先生方に支えてもらう側ですが、この二週間は支える側でした。体調は



大丈夫か、午後のプログラムに参加するために何時に学校を出発するのかなど、アテンドする責任も感じました。

また、英語の表現にも驚きました。英語だと思っていたものがカタカナ英語で伝わらないこともありました。

別れの時、Good Bye ではなく、See you again と言って見送りました。また会う時まで、英語を上達したいと思いました。



派遣では
気づけなかったこと



あまり食べないことに驚きました。
味噌や醤油、出汁といった素朴なものが
合わなかったと思います。

行く場所によってテンションが変わることに驚きました。
訪れた中で一番お城がテンション高かったです。落ち着
いたところが好きなのだと思います。



派遣では気づけなかったことに多く気づくことができました。ホスト側の気持ちはもちろん、文化の違いを改めて知ることができました。僕たちが、普段当たり前と思っているものも当たり前ではないということです。

また、僕たちが体験させてあげたいと思うことが合わないこともありました。そのため、「好きなことは何？」と聞くより、「苦手なことは何？」と聞いた方がお互いにとって良いと思いました。

受け入れて感じたこと

砧中学校 宮本 圭

私は、今回のカナダ交換留学の受け入れで、文化の違いや国の違いによる人々の考え方の違いについて知ることができ、驚いたことがたくさんありました。私の留学ペアのライアンについて思ったこともあります。

まず、そもそも私は受け入れについて甘く考えていました。それは、どういうことかという、派遣の時と比べて自分の知っている世界にライアンが来るだけで、大して疲れないし、大変でもないと思っていたところがありました。

しかし、実際にライアンが来てみると、世界は一変しました。ご飯を食べる時、4脚しかなかった食卓の椅子が5脚になっていたり、いつもは一人で行動するような場面でもライアンと一緒に行動し、常に先のことや体調を気遣って動かないといけなくなり、全く違う世界に驚きました。ここから気づいたことは、ライアンたちも、私たちがカナダに行った時はこういう風に感じていたのだなと思いました。カナダに行った時は、全て車で行動することに驚きましたが、それと同じように、ライアンも電車に感心したのだろうと自分で考えると、再度日本について知ることができたような気がしました。

こうやってライアンが経験していった様々なことについて、自分でも発見がありました。そのうちの一つは、食べ物についてです。ライアンはアレルギーを持っているので、給食の時は、セブンイレブンでライアン自身が選んだご飯を食べていたのですが、ツナマヨおにぎりを食べていました。ある程度、日本料理としてとても有名な料理はライアンも知っているようで、おにぎりの他に寿司なども食べていました。嫌いな物もあるものの、少しずつチャレンジをされていてライアン自身の経験としても良いものになったと思います。



このように、受け入れでは、派遣の時には感じることはできなかった日本の姿がありました。また、このような受け入れができたことは家族や学校の先生や友達の協力が不可欠だったと思います。以上のことも含めて、この経験を大事にしていきたいです。

カナダの受け入れでの発見！

日本の食べ物
おいしかったのか？

気に入ってくれた料理は
あった！！

ズバリ タコ焼き！
相当おいしかったらしく、
熱々とわかっていながらも
急いで食べていました。



プッチンプリンがお気に入り！

プッチンが好きでカナダにはないらしく、
また、苦くない甘いプリンなのでよく食
べていました。



日本のコンビニはやはり便利！

お昼ご飯や飲み物、おやつを
買うときに行きました。アレ
ルギーを持っていたので、最
初来た時はなかなかチャレン
ジしてくれませんでした。が、
アレルギー表記をみると安心
して購入して食べていました。



冷たい食べ物も平気？

冬の夜でもコンビニで買った
好きなアイスクリームを食べ
たり、スターバックスでコー
ヒーを飲む時もアイス頼む
などしていました。

「いただきます」、
「ご馳走様でした」は
当たり前ではない？！

当たり前のように言っ
ている「いただきます」、
「ご馳走様でした」も教
えてあげました。手を合
わせるということも日本
独特の文化なんだと再確
認しました。



食べるタイミングと量が 日によってバラバラ

文化的にも習慣的にも、
日本よりも間食が多い影
響なのかあまり食べない
のも見受けられました。



残すのも普通？

「ご馳走様でした」といっ
てご飯が少し残っても
片付けてしまうことがあ
りました。

このようにカナダの受け入れでは、派遣では感じられ
なかったカナダの食文化に触れることができました。
食文化による違いは些細な違いではありますが、大事
なことだと改めて気づきました。これからも食文化に
ついて考えて生活していきたいです。

世田谷区の1人の外交官として

砧中学校 柳 さくら

私がこの受入事業とカナダへの留学の説明を初めて聞いた時、「私たちは世田谷区の外交官の様なものだ」と言われたのを覚えています。私にとって外交官は、その国を代表する顔の様なものだと思います。

今回の受入事業では、私たちは、私のカナダのホストフレンドである Kim を受け入れ、私の家で生活してもらい、日本という国を体験してもらいました。カナダと日本では国土面積が違い、食べる料理も、文化も違います。そのため、私は、違う文化や感覚を持った Kim が私の家に泊まり、そして、日本の文化を体験しながら暮らすことに対して不安を感じていました。事前に家族と打ち合わせをして、休日の予定を考えたりするなどの準備をしていましたが、二週間しか一緒にいなかった他国の文化を持つ彼女に対して緊張していました。

しかし、初日に初めて彼女を連れて学校の門を通った時、玄関先にそれまでは無かったカナダと日本の国旗が交わって飾ってあるのを目にした時、私は最初、ウィニペグ派遣に対して応募方法が作文だからという理由だけで応募することを辞めようとしたことを思い出しました。あの時、作文の苦手意識という軽い理由だけで応募するかを迷った、けれども諦めずに挑戦しようと思った、あの決断が、私にこれほどまでの経験をさせ、学校に国旗が飾られるほどの出来事を起こしたのだと、改めて世田谷区から選ばれたウィニペグ団の一人としての責任を感じ、そして、自分が引き起こした物事の大きさに喜びを感じました。

それから、私は Kim にとってのこの学校の代表生徒であり、そして日本人の一人なのだと、思う様になりました。受け入れの最初は、私は Kim のことをお客さんの様に接していたけれども、一緒に過ごしているうちに、私と Kim は対等の関係なのだと自覚しました。Kim と過ごしていると、確かにマナーや常識の違いですれ違うこともありましたが、対等な一人の人間として、間違っていることは指摘したり、自国の文化を教えたりすることで、一人の人間としての尊厳と、その国の一人の外交官になれるのではないかとこの受け入れを通して感じる様になりました。



受入事業で体験したこと

ウィニペグでは、見られない日本特有の場所に連れて行きました。

また、東京タワーに連れて行くなど、日本の観光地を出来るだけKimに見せるようにしました。

Kimは積極的に日本の食べ物を食べるようになっていて、特に焼肉をよく食べていました。

渋谷に行きました。

Kimが好きなショッピングに行き、パンケーキを食べました。

原宿に行きました。Kimが食べたいと言っていた、フルーツ飴を食べたり、洋服を買いに行ったりしました。



全てKim優先に行動するのではなく、しっかりと私たちの生活に溶け込ませたうえで一緒に日本の生活をしてもらいました。

Kimはカナダの文化を持っているからか、日本のマナーやルールに沿っていない部分もありましたが、それでも日本の生活や価値観に合わせようとしてくれたのは嬉しかったです。

スタバの席に足をかけてしまっていたことがありますが、私が指摘したらすぐに直してくれました。

私たちは文化の違いなどもありましたが、しっかり自分の考えを言うことで、自分の個性を満遍なく発揮することができたと思います。



8000kmの友情

鳥山中学校 松尾 由茉

9月にウィニペグでお別れした時に「See you in January!」と言って東京に戻ってきました。9月から1月までの4ヶ月間はあっという間でした。私のバディのKamiは、東京に来てから慣れない環境で体調が優れず、学校に行けなかったり、ご飯を食べなかったりとマイナスな出来事が続き、心配することが多くありました。想定外の事態に家族は臨機応変に対応しましたが、予定を変更せざるをえないこともありました。そんな中でも、ウィニペグの仲のいい生徒同士でショッピングに行ったり、ご飯を食べに行ったりして気分転換をすることで日本を楽しんでもらいました。

文化の違いを感じることも多く、生徒の中で困ることもありました。カナダに行った際には毎日午後のアクティビティの後どこかに出かけるのが一般的でした。しかし、日本では急に誰かと予定を合わせることが難しく、文化の壁を感じました。

どこかに行けない日でも楽しませてあげようと、家族で協力し家でおにぎりを作って食べたりもしました。料理が好きなKamiは、カナディアンパスタを作ってくれて、カナダと日本の小さな架け橋ができた気がしました。

派遣事業で気付かされたことがあります。日本とカナダは8000km以上離れていて、時差も14時間ほどあります。国籍や生まれた場所、全て関係なく、皆仲良くできること、私たちが育んできた「友情の強さ」を実感しました。

ここまで私が頑張ってやり遂げられたのは、支えてくれた日本人のメンバーや先生、区の皆さんのおかげだと思います。この世田谷区の派遣事業としては終わりを迎えるかもしれませんが、私たちの友情は終わりません。また世田谷区の14人のメンバーとウィニペグ市の14人のメンバー全員でどこかで会えることを願っています。Thank you so much, everyone!!! See you again!



🏠 ホストファミリーになって 🍁



受け入れ期間中は
区役所に国旗がありました！



家でパスタを作って
くれました



日本文化体験の様子



上野動物園のパ
ンダに興奮して
いました



週末に原宿に
行った時の様子



ホストファミリーになって

自分たちが想像していたよりももっと大変で過酷なことも多かったけれど、世田谷メンバーで協力し合いながら乗り越えられたことがたくさんありました。

約2週間の中で、たくさんの文化の違いを感じた分、発見したことも多く充実した2週間でした。

バディーを支えたり、予定を組んだりして、自分の責任もわかり、その責任の重さやアテンドする重要さなど学びが多く、良い経験ができました。

助けてくれた皆様ありがとうございました！

また、派遣と受け入れを通じて学んだことはたくさんありますが、その中でも「友情」が一番です。他の世田谷メンバーもバディーとも全員が仲良く、男女問わず仲良くしてすごいなと感じました。国が違って結ばれている固い友情に感激しました。



異文化の架け橋になってみて

千歳中学校 今井 咲愛

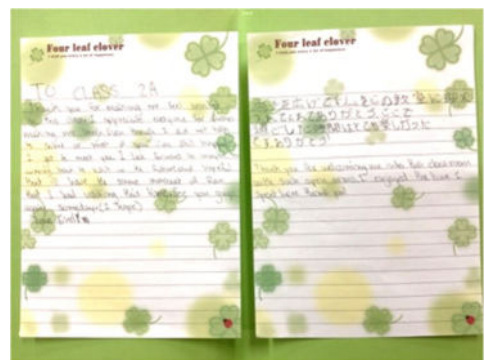
「もう無理だ。」これは私がこの受入期間中に得た忘れられない感情です。9月にカナダ団とお別れをし、約3ヶ月後の1月下旬に世田谷団がホスト側としての受け入れが始まりました。最初は、みんなと久しぶりに再会を果たすことができ、とても興奮していました。バディのEvelinとは慣れない英語と身振り手振りで会話をし、仲を深めようとしていました。しかし、派遣メンバーとのプログラムが終わり家に帰ると部屋に籠り、



夕飯はいらないと拒否し寝てしまう日々が続いていました。みんなという時は笑顔で元気なのに「どうして?」「体調でも悪いのかな」などいろいろな気持ちがよくりました。このような感情と共に、いろいろなことが想像を大きく上回ってパニックになってしまうことも多々ありました。

でも、それこそ「考え方の違い」でした。ウィニペグ団は何事にも楽観的に考え、ホームステイをしているからと私たちホストに深く干渉したりせず、気楽に生活をしていると徐々にわかってきました。それに気づいてからは、私も関わり方を改め、より仲が深まった数日間だと感じました。

区のプログラム以外でもいろいろな思い出があります。一番はプライベートの時間です。お寿司やラーメン、節分など日本の文化にも親しんでもらい、たくさん笑い合いました。最初のご飯を食べてくれず悩んでいたけれど、家までの帰り道、衝撃の言葉をEvelinが発しました。「Japan is very good place.」「Japanese food are better than in Canada.」思っていたよりも日本での生活を楽しくしてくれていてとても嬉しかったです。また、一緒に学校に登校するとクラスや学校の人たちはEvelinを温かく迎え入れてくださり、人気者でした。昼休みには校庭でサッカーをしたり、英語の授業ではみんなの先生になってみたりととても楽しんでいる様子でした。校外学習に行った時は足が痛いなど疲労を訴えていました。確かにカナダでは車での移動が当たり前で、日常生活からも文化の違いを感じました。最終日にはクラス内で写真を撮り、Evelinからのサプライズがありました。それは、英語と慣れない日本語で書かれたクラス宛の手紙です。たったの四日間でも私だけでなく、学校の友達にも良い経験になったと思います。そんな楽しい日々を過ごす中でお別れの日が近づいていました。前日にはふざけ合いながら笑ってパッキングをしました。その瞬間は、最初に考え方の違いで「もう無理だ」と悩んだのがまるで嘘かのように幸せな瞬間でした。最終的にEvelinとは、私たち二人だけのノリや遊びが生まれました。いろいろな感情を共にしたEvelinが大好きです。



Evelin、ウィニペグ団のみんなは国境を越えた大切な友達です。生まれた環境、外見、何もかもが違っても私たちはこの短い期間と釣り合わないくらい大きな友情が生まれました。悩み苦しむこともあったけれど、初めて国外との交流をし、自分の夢に近づいたとても貴重な経験となりました。今後も派遣メンバー、ウィニペグ団との交流を続けて行きたいと思います。今回での学びを生かして地域、学校に広め貢献していきたいです。区の方々、家族、派遣メンバー、関わってくださった方々皆さんに感謝しかありません。本当にありがとうございました。今後もウィニペグと世田谷の交流が続くよう願っています。NO「さようなら」JUST「じゃあね」。



～ホストファミリーになってみて～

- 多文化国家であるカナダ
 - 文化や価値観がバラバラ
- お互いを認め、尊重する
大切さを学べる。

見た目、育った環境、言語
など何もかもが違う相手と
たった数ヶ月しかなくても
...

→ コミュニケーションなど
「挑戦」をすることで、
「一生」の友情が生まれる。

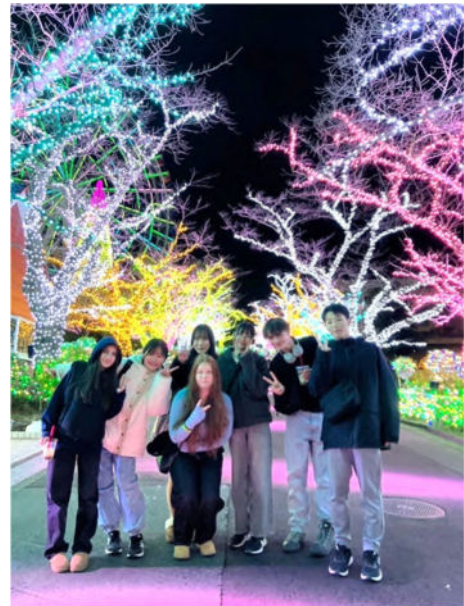


受け入れ事業に参加して

千歳中学校 佐藤 花音

「日本に来られなくなっていました。」

受け入れ5日前、ペアの Ann から連絡がありました。私はその話を聞いた時、頭が真っ白になりました。しかし、日にちが経つにつれて徐々に現実味が増してきて、本当に Ann は来ることができなくなってしまったのだと実感しました。最初は悲しいという感情が強くありましたが、段々悔しいという感情も芽生えてきました。なぜなら、もう少し早くにわかっていればなんとか来ることができていたかもしれないと思ったからです。そんな気持ちの整理もあまりついていないまま受け入れ事業も始まり、みんなは嬉しそうに再会を喜び会っていましたが、その時私は心から嬉しいと思うことができませんでした。本来ならここに Ann もいたはずなのにと感じてしまったからです。しかし、同じ学校の今井家の皆さんと Evelin が私のことも気にかけてくれて、休日や区の事業が終わった後に遊園地に行ったり、ショッピングに行ったりしました。また、カナダの派遣の際にあまり話せていなかったカナダの人たちとも多く交流することができ、この二週間が充実したものになりました。そして、区の職員の皆さんにも気を遣っていただき、最後は楽しく終わることができました。本当にありがとうございました。



私は今回、Ann が来られなくなってしまうと、まだ国同士の行き来が世界全体でしやすい状況になっていないと感じました。今回 Ann が来られなくなってしまうのは、カナダの永住権に関する手続きの大幅な遅れが原因であると Ann やウィニペグの引率の先生たちなどから聞きました。カナダは移民を多く受け入れている国です。私はすごく良い国だと思いましたが、国籍によって国境を超えた移動がしにくいということが、今回 Ann が来られなくなってしまうとわかりました。



私は、今回のトラブルを通して、これからも続くであろう交換派遣でこのようなことが起こらないようにと願います。そして、これからの近い将来、国籍に関係なく国境を超えての移動がしやすい環境にしていくことが必要であると思いました。



Ann & Kanon in Winnipeg



Annがくれたカナダからのギフト
ビーバーのぬいぐるみと一緒に！

世田谷区中学生団全員で力を合わせて
ウィニペグ中学生団のホストを頑張りました！



※バディのAnnは、誠に残念ながら、渡航手続きの関係で来日が叶いませんでした。

文化の違いに気づいた2週間

喜多見中学校 上田 憲翔

受け入れをする前、僕と母はスケジュールをしっかりと組んで準備万端だった。そして、受け入れ当日のウェルカムパーティ。母は、マーカスと初対面だったが、僕は久しぶりの再会で少し浮かれていた。

いよいよ2週間の受け入れがスタート。最初は疲れている様子が表情に出ていたので、スローペースなスケジュールに組み直した。翌日、プログラムどおり、



一緒に登校し、日本の授業を受けてもらった。カナダでは、ランチタイムまで我慢しなくてもお菓子などが食べられるが、日本では給食時間まで我慢し、全員揃って「いただきます」をするためか、少し退屈そうだった。僕はホームステイ受け入れを軽く見ていた。

休日は、バディの行きたい場所に同行した。しかし、スケジュールの関係で行けない場所もあり申し訳なく感じた。

受け入れを通して、僕が驚いたのは日本とカナダの文化の違いだ。日本では、おかわり、お辞儀、公共の場では静かにする(学校、電車、発表など)、ゴミの分別、家に入る際は靴を脱ぐ、相手との話では相槌を打つなど、数えたらキリがないほど独自のマナー

がある。そんなマナーを少しでもカナダの人に知ってもらいたくて、必死に伝えたが、カナダには、そのようなマナー文化がなかった(フリーマナー)。マーカスのご飯の時に米粒を残していて、僕が「Finish?」と聞いても、「Yeah」と言い、食べようとしなかった。「これが文化だ」と僕は初めて衝撃を受けた。

海外派遣を通して気づいたのが文化の違いだった。この経験を生かし、人とのコミュニケーションをしっかりとし、伝わらなくても諦めずに伝えていく必要性を学んだ。

これで僕の報告を終わります。ありがとうございました。





思う存分楽しんでくれていた日本観光

まとめ

2週間という短い期間で、触れる
ことのできないこともあったかもし
れないけれど、その中で、少し
でもバディが楽しむことができた
ならよかったです。

「日本の魅力を伝えるには」

世田谷中学校 下平 隼佑

私は、日本の魅力を世界の人に伝えたいと思い、この派遣事業に応募しました。2週間、パートナーのノアを受け入れて感じたのは、日本の魅力や特徴を伝えるには、実際に来てもらうことが一番効果的だということです。

ノアにはカナダでは受けられないような授業を体験してもらうことができました。カナダの学校と日本の学校を比べると、机や椅子の配置が違ったり、カナダでは授業中にお菓子を食べて良いなど様々な違いがありますが、彼が特に驚いていたのは、授業の形式です。世田谷中学校では、社会科の授業で、先生が授業をせず、生徒が自分たちで勉強をする自学の時間があります。ノアはそういった授業を受けた経験がないようで、「先生がただ喋っている授業よりも良い」と話していました。

日本独自の文化に直接触れてもらうこともできました。日本に来て着物を着たり、抹茶を点てて飲んでみたり、書道や空手を見様見真似で練習したりしました。特に空手の練習では、正座や礼をすることで日本の礼儀作法を学んでもらえたと思います。また、受入期間中にあった「節分」もやり、日本の行事を体験してもらうこともできました。



日本を訪れてみて初めて分かったこともあったようです。ホームステイの期間中、ラーメンや寿司を食べましたが、寿司の中で一番おいしかった物は何？とノアに尋ねると、「納豆が一番おいしかった。」と答えたので、とても驚きました。私は、海外の人にとって納豆は「ねばねばして臭い物」という印象が強いと思っていたので、ノアが納豆と答えるとは思っていませんでした。ノアも納豆がおいしいということを知らなかったと思います。他にも、箸の使い方を教えると、想像以上に難しかったようで、正しい使い方を教えると、こうやって使うのか、と理解したような表情をしていました。



日本を知っているという外国人は大勢いますが、やはり訪れてみないと分からないこともたくさんあると思います。私は今後も積極的に海外の人とコミュニケーションを取って日本の魅力を理解してもらい、その魅力を世界に発信していきたいです。

ノアと一緒に体験したこと

平日の午後を利用して
空手、書道、回転寿司、豪徳寺
などへ

休日は、
Making Of Harry Potter、渋谷のJUMP SHOP、江の島など
へ行き、数多くの思い出を作りました！！



ノアに聞いた、日本で印象に残ったこと Best 3

1. 新幹線の速さ



2. ラーメンのおいしさ



3. 学校で友達ができたこと



関連資料



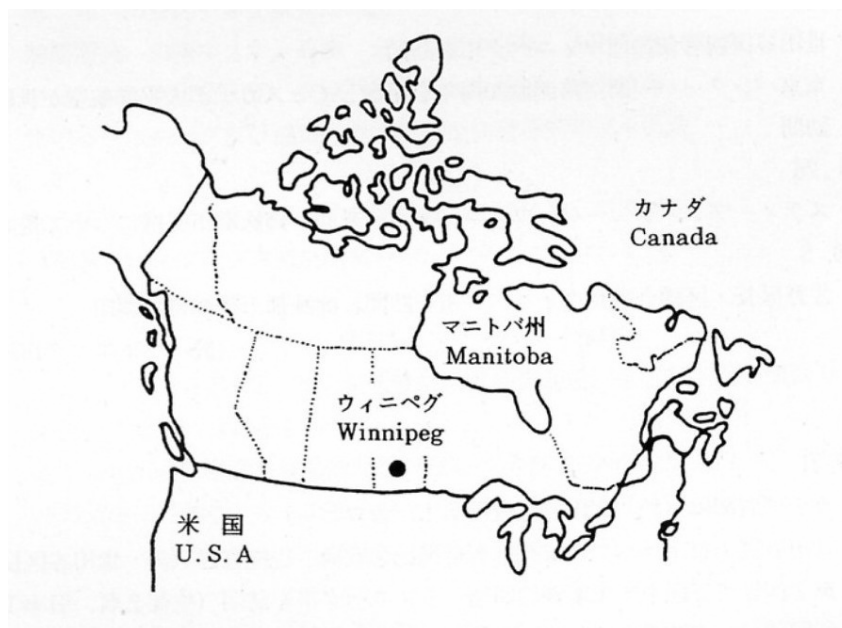
ウィニペグ市の概要

人口＝約 75 万人 面積＝約 462 km²

ウィニペグ市は、地理的には北米大陸の中心に位置し、穀物市場や毛皮の交易などから栄え、交通の要衝として発展しました。また、カナダでも有数の都市で、マニトバ州の州都でもあります。世界的に有名な「ロイヤル・ウィニペグ・バレエ」をはじめ、音楽や演劇の公演活動も盛んです。

世田谷区とは児童生徒の絵画交換をきっかけに 1970 年 10 月に姉妹都市提携が結ばれました。その後 2 年に 1 回、両都市の中学生が相互に訪問する教育交流、お互いの国の踊りや音楽、絵を通した文化交流やスポーツ交流など、様々な交流が続いています。

2025 年は姉妹都市提携 55 年目を迎え、ますます交流の輪が広がっています。



参 考

- 東京とウィニペグとの時差 －15 時間（4 月～10 月は －14 時間）
- 東京からウィニペグまでの所要時間（バンクーバー経由航空路） 約 12 時間

世田谷区とウィニペグ市の姉妹都市交流の歩み

提携に至るまで

1961.10.31	ディーフェンベーカー カナダ首相来日歓迎大会を開催 （於：世田谷区民会館）
1962. 1	世田谷区とウィニペグ市の学校との間で姉妹校提携が結ばれる ウォルスレイ校と烏山中学校、松沢小学校 グラドストン校と玉川中学校、中里小学校 プリンシプル・スパーリング校と尾山台中学校、池之上小学校 マークレー校と桜木中学校、赤堤小学校
1964.10. 8	カナダの中学生 2 名来訪
1965.10.17-11. 8	世田谷区親善使節団 ウィニペグ市を訪問
1966.11.16	カナダ・インディアン女王がカナダ万国博覧会協会からの親善使節として世田谷区を訪問
1967. 4	姉妹校提携変更 ウォルスレイ校と烏山中学校、松沢小学校 グラドストン校と東深沢中学校、花見堂小学校 プリンシプル・スパーリング校と船橋中学校、船橋小学校 マークレー校と桜木中学校、赤堤小学校
1969. 9. 2	東京ーバンクーバー間空路開設 20 周年を記念し、ミス・カナダ太平洋航空が来訪
1970. 4.18- 4.26	スティーブン・ジューバ ウィニペグ市長来訪、姉妹都市提携について提案
1970. 4.22- 5.11	世田谷区親善使節団 ウィニペグ市を訪問
1970. 9.29	区議会、世田谷区とウィニペグ市の姉妹都市提携議決
1970.10. 3-10. 5	佐野区長、区議会議長 ウィニペグ市を訪問
1970.10. 5	佐野区長、スティーブン・ジューバ ウィニペグ市長 姉妹都市提携書に調印 （於：ウィニペグ市議会議場）

提携以後

1971. 8. 4- 8.20	第 1 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 2 名、引率 1 名（東深沢中教諭 佳藤木尚次）
1972. 7.18- 7.21	世田谷区親善使節団 ウィニペグ市を訪問
1973. 9. 4- 9.22	第 2 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 4 名、引率 1 名（八幡中教諭 高橋富男）
1974. 2. 7	世田谷ウィニペグ友好協会設立
1974. 3.13- 3.26	第 1 回ウィニペグ市中生親善訪問団来訪 生徒 22 名、引率 4 名（アーサー・リーチ教育長、ゼネラル・ビィング校 ラター校長、ジョージ・ハローカ教諭、マニトバ日系市民協会 田住喜久子氏）
1974. 5.28- 6. 6	ウィニペグ市制百年祭を記念し、友好協会親善訪問団 ウィニペグ市を訪問

1975.10. 3-10.23	第3回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒4名、引率1名（千歳中教諭 織井徳夫）
1977. 4.29- 5.19	第2回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒13名、引率3名（ウィニペグ市議会 パール・マクゴニガル議員、アーサー・リーチ元教育長、ゼネラル・ビィング校 ジョージ・ハローカ教諭）
1977. 8.14- 8.27	ウィニペグ市日系移民百年祭を記念し、世田谷区親善訪問団 ウィニペグ市を訪問
1977.10. 7-10.22	第4回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒4名、引率1名（桜丘中教諭 菅原弘）
1978. 8.28- 8.30	ウィニペグ市 民族舞踊合唱団ティルサ・クワイヤー来訪
1979. 7. 8- 7.17	第3回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒12名、引率4名（アーサー・リーチ元教育長、ゼネラル・ビィング校 フレッド・オルセン校長、ジョージ・ハローカ教諭、モウリーン・ビスキー教諭）
1979.10.31-11.12	第5回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒4名、引率1名（駒留中教諭 林和明）
1980. 8.11- 8.24	姉妹都市提携10周年を記念し、世田谷区親善訪問団 ウィニペグ市を訪問
1980.10. 5	姉妹都市提携10周年記念植樹（於：世田谷公園）
1981. 2.14- 2.21	ウィリアム・ノーリー ウィニペグ市長夫妻（一行6名）来訪
1981. 2.17	大場区長、ウィリアム・ノーリー ウィニペグ市長 姉妹都市提携確認宣言書に調印（於：世田谷区議会議場）
1981. 2.17	ウィリアム・ノーリー ウィニペグ市長を世田谷区特別名誉区民として顕彰（於：世田谷区議会議場）
1981. 5.18- 5.31	第4回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒14名、引率2名（アーサー・リーチ元教育長、ゼネラル・ビィング校 パトリシア・イエン教諭）
1981. 9.28-10.12	第6回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒4名、引率1名（上祖師谷中教諭 岩崎貫一）
1982. 8.22- 8.25	区制50周年を記念し、世田谷区親善訪問団、友好協会親善訪問団 ウィニペグ市を訪問
1983. 9.19-10. 7	第7回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒8名、引率3名（桜木中校長 若林博、希望丘中教諭 酒井悠美、区専門委員 中山靖由）
1984. 3.25- 4. 8	第5回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒14名（ゼネラル・ビィング校、バイカウント・アレキサンダー校）、引率3名（ゼネラル・ビィング校 マール・ティードグロット校長夫妻、ダーリン・ピーターセン教諭）
1984. 8. 5- 8. 8	ウィニペグ市 民族舞踊合唱団ティルサ・クワイヤー来訪
1985. 9.14-10. 2	第8回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒8名、引率3名（砧中校長 辻高毅、桜丘中教諭 阿部マサ子、区専門委員 中山靖由）
1986. 3.29- 4.13	第6回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒14名、引率3名（ヘンリー・アイザット教育長夫妻、ゼネラル・ビィング校 ジョン・カデル教諭）
1986. 7.24- 7.27	ウィニペグ市 民族舞踊団ルサルカ・ウクラニアン・ダンスアンサンブル来訪

1987. 9. 9-10. 7	第 9 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 12 名、引率 3 名（玉川中校長 赤木正民、喜多見中教諭 村田知子、区専門委員 中山靖由）
1988. 3.27- 4.10	第 7 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 12 名、引率 3 名（ゼネラル・ビィング校 バレリー・バーチ校長夫妻、ダーリン・ピーターセン教諭）
1989. 9.16-10. 4	第 10 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 12 名、引率 3 名（東深沢中校長 松原新一、山崎中教諭 原田栄子、区専門委員 中山靖由）
1990. 3.25- 4. 8	第 8 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 11 名、引率 3 名（ゼネラル・ビィング校 リチャード・マーティン校長夫妻、エレンア・マリア・イプセック教諭）
1990. 8. 6- 8. 9	姉妹都市提携 20 周年を記念し、世田谷区の文化団体 ウィニペグ市を訪問
1990. 8. 7- 8. 8	世田谷区の文化団体 フォーカラム民族祭に参加（茶の湯、生け花、箏曲、尺八、吟詠・吟舞、合気道）
1990.10.10	大場区長、ウィリアム・ノーリー ウィニペグ市長 姉妹都市提携再確認宣言書に署名（於：ウィニペグ市議会議場）
1990.12. 4	姉妹都市提携 20 周年記念コンサート開催（於：北沢タウンホール）
1991. 1.22	大場区長、ウィリアム・ノーリー ウィニペグ市長 姉妹都市提携 20 周年記念植樹（於：世田谷区立総合運動場）
1991. 9.13- 9.30	第 11 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 16 名、引率 4 名（弦巻中校長 小池源一、駒留中教諭 依田公子、太子堂中教諭 田口徹、区国際担当 荒井隆）
1992. 3.22- 4. 5	第 9 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 16 名、引率 4 名（ゼネラル・ビィング校 リチャード・マーティン校長夫妻、パティ・モント教諭、ケビン・ワード氏）
1992.10.25	ウィニペグ新市長にスーザン・トンプソン女史が当選
1993. 9.17-10. 4	第 12 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 16 名、引率 5 名（梅丘中校長 小池角次郎、上祖師谷中教諭 関本淳子、烏山中教諭 田中徹哉、区国際担当 荒井隆、区国際担当 岩渕博英）
1994. 3.19- 4. 2	第 10 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 16 名、引率 3 名（ゼネラル・ビィング校 ピーター・フランシス校長、スーザン・デューク教諭、ダグ・ゼイジャック教諭）
1995. 2. 5- 2. 7	スーザン・トンプソン ウィニペグ市長（一行 3 名）来訪
1995. 2. 6	スーザン・トンプソン ウィニペグ市長を世田谷区特別名誉区民として顕彰
1995. 8.10- 8.13	姉妹都市提携 25 周年を記念し、世田谷区親善訪問団 ウィニペグ市を訪問
1995. 8.11	大場区長、スーザン・トンプソン ウィニペグ市長 姉妹都市提携再確認宣言書に署名（於：ウィニペグ市議会議場）
1995. 9.15-10. 2	第 13 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 16 名、引率 4 名（尾山台中校長 榊原忠造、用賀中教諭 大西晶子、砧中教諭 和田文宏、区国際担当 近藤立志）

1995.10.26	ウィニペグ市長にスーザン・トンプソン女史が再選
1996. 3.15- 3.30	第 11 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 16 名、引率 3 名（ゼネラル・ビィング校 ピーター・フランシス校長夫妻、 クロード・バン教諭）
1996. 5.13- 5.14	マニトバ日系カナダ人文化センター内和太鼓団体「日の出太鼓」来訪
1996. 7. 2- 7. 4	世田谷区議会北米視察団 ウィニペグ市を訪問 マニトバ日系カナダ人文化センター 日本庭園鍬入れ式に参加
1997. 9.12- 9.26	第 14 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 16 名、引率 4 名（喜多見中校長 野原明、希望丘中教諭 三堀寿美江、玉川 中教諭 名執智、区国際担当 安藤良徳）
1998. 3.22- 4. 1	第 12 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 16 名、引率 2 名（ゼネラル・ビィング校 ジェラルド・ギル副校長、ボニー・ マッカン教諭）
1998. 6. 8	世田谷ウィニペグ友好協会解散
1998. 9.20	前ウィニペグ市長ウィリアム・ノーリー氏、在ウィニペグ日本国名誉総領事に就任
1998.11. 4	ウィニペグ新市長にグレン・ムレー氏が当選（1998.10.28 選挙）
1999. 7. 2	区内音楽学校「サカモト・ミュージック・スクール」 ウィニペグ市を訪問 合唱グループ「ウィニペグ・シンガーズ」との共演によるコンサートを開催
1999. 7.31- 8. 1	マニトバ日系カナダ人文化センター内和太鼓団体「日の出太鼓」が来訪し、せたが や区民まつりに出演
1999. 9.15-10. 2	第 15 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 16 名、引率 4 名（用賀中校長 高野安弘、奥沢中教諭 金高輝雄、梅丘中教 諭 鈴木貴子、区国際担当 安藤良徳）
2000. 3.23- 4. 4	第 13 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 16 名、引率 3 名（ゼネラル・ビィング校 リサ・ボレス副校長、ボニー・マ ッカン教諭、ダレン・ジュビー教諭）
2000. 5.11- 5.18	姉妹都市提携 30 周年を記念し、グレン・ムレー ウィニペグ市長（一行 8 名）来 訪
2000. 5.15	グレン・ムレー ウィニペグ市長を世田谷区特別名誉区民として顕彰
2000. 5.16	大場区長、グレン・ムレー ウィニペグ市長 姉妹都市提携再確認宣言書に署名 （於：世田谷区議会議場）
2000. 8.15- 8.20	姉妹都市提携 30 周年を記念し、世田谷区親善訪問団 ウィニペグ市を訪問
2000. 8.16	水間助役、グレン・ムレー ウィニペグ市長 姉妹都市提携再確認宣言書に署名 （於：ウィニペグ市議会議場）
2002. 1.13- 1.26	第 16 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 16 名、引率 4 名（新星中校長 宮下洋、千歳中教諭 近藤章子、芦花中教諭 森永良太、区国際担当 松田京子）
2002. 3.17- 3.29	第 14 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 16 名、引率 3 名（ゼネラル・ビィング校 リサ・ボレス副校長、ジム・コロ ミロ教諭、ステシー・ユエル教諭）
2002.10.24	ウィニペグ市長にグレン・ムレー氏が再選

2003. 9.17-10. 4	第 17 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 16 名、引率 4 名（山崎中校長 白戸信一、富士中教諭 瀬谷光子、深沢中教諭 小曾根隆、区国際担当 稲葉裕美）
2004. 3.16- 3.28	第 15 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 16 名、引率 3 名（ゼネラル・ビィング校 ダレン・ジュビー副校長、リサ・カンスキー教諭、デニス・マーフィー教諭）
2004. 6.24	ウィニペグ新市長にサム・ケイツ氏が当選（2004.6.22 選挙）
2004.10.31	サム・ケイツ ウィニペグ市長来訪
2005. 7.30- 8. 4	姉妹都市提携 35 周年を記念し、世田谷区親善訪問団 ウィニペグ市を訪問
2005. 8. 2	熊本区長、サム・ケイツ ウィニペグ市長 姉妹都市提携再確認宣言書に署名（於：ウィニペグ市議会議場）
2005. 9.14-10. 1	第 18 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 16 名、引率 4 名（深沢中校長 榊原博子、芦花中教諭 高山朗、尾山台中教諭 川原真夕子、区国際担当 稲葉裕美）
2006. 3.14- 3.26	第 16 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 16 名、引率 3 名（ゼネラル・ビィング校 ダレン・ジュビー校長、クリスティーヌ・パールマター教諭、ダレン・オートン教諭）
2006. 10.25	ウィニペグ市長にサム・ケイツ氏が再選
2007. 9.12- 9.29	第 19 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 中学生 1・2 学年に対象を拡大 生徒 16 名、引率 4 名（東深沢中校長 山崎勉、梅丘中教諭 松本啓子、深沢中教諭 宮本猛司、区国際担当 根岸由郁子）
2008. 3.11- 3.22	第 17 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 16 名、引率 3 名（ゼネラル・ビィング校 ロレイン・コンパリー副校長、イアン・スミス教諭、リサ・カンスキー教諭）
2008.11.6－12	第 3 回世田谷 246 ハーフマラソン大会 姉妹都市招待選手として 4 名来訪
2009. 9.17- 10.3	第 20 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 16 名、引率 4 名（桜丘中校長 藤原秀樹、太子堂中主幹教諭 鈴木憲、喜多見中教諭 関口あゆみ、区国際担当 根岸由郁子）
2010. 3. 9- 3.21	第 18 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 16 名、引率 3 名（ゼネラル・ビィング校 ダレン・ジュビー校長、ウィリアム・バート教諭、マンディ・ウォルフ教諭）
2010. 8. 4- 8. 9	姉妹都市提携 40 周年を記念し、世田谷区親善訪問団 ウィニペグ市を訪問
2010. 8. 6	熊本区長、ゴード・スティーブス ウィニペグ市代理副市長 姉妹都市提携再確認宣言書に署名（於：ウィニペグ市議会議場）
2010. 10.27	ウィニペグ市長にサム・ケイツ氏が再選
2011. 9.15- 10.1	第 21 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 16 名、引率 4 名（深沢中校長 野崎裕一郎、尾山台中主幹教諭 沖山雄一、深沢中教諭 加藤さや華、区国際担当 久米里沙）

2012. 3. 6- 3.18	第 19 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 16 名、引率 5 名（ヘンリー・アイザット・ミドルスクール：ダレン・オートン副校長、ティム・ファスト教諭、ゼネラル・ビィング校：ジュディ・パーニー校長、シャノン・シールズ教諭、後藤龍哉）
2013. 9.19- 10.5	第 22 回世田谷区中学生親善訪問団 ウィニペグ市を訪問 生徒 16 名、引率 4 名（尾山台中校長 佐藤恭子、世田谷中教諭 原田昌幸、砧中教諭 鈴木仁美、区国際担当 久米里沙）
2014. 3. 4- 3.16	第 20 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 16 名、引率 5 名（ヘンリー・アイザット・ミドルスクール：ダレン・オートン副校長、マルガリータ・ソーサ教諭、ゼネラル・ビィング校：ジュディ・パーニー校長、デイビッド・グレイブ教諭、後藤龍哉）
2014.11.4	ウィニペグ新市長にブライアン・ボウマン氏が当選（2014.10.22 選挙）
2015. 9.17- 10.2	第 23 回世田谷区中学生代表团 ウィニペグ市を訪問 生徒 16 名、引率 4 名（東深沢中校長 松平昭二、尾山台中教諭 杉浦雅美、世田谷中教諭 西山宏明、区国際担当 長倉美紀）
2016. 3. 8- 3.20	第 21 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 16 名、引率 4 名（ゼネラル・ビィング校：ジュディ・パーニー校長、アリスン・ギアソン教諭、ヴァイカウント・アレキサンダー校：シャノン・ティッピン校長、ロン・モニン教諭）
2017. 9.14- 9.29	第 24 回世田谷区中学生代表团 ウィニペグ市を訪問 生徒 18 名、引率 4 名（世田谷中校長 阿部陽一、富士中教諭 川崎慶介、桜丘中教諭 樋口英美、区国際担当 渡邊みほ）
2018. 1.16- 1.28	第 22 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 18 名、引率 4 名（ゼネラル・ビィング校：ジュディ・ファレル校長、エベリーナ・ペッシテッリ教諭、ヴァイカウント・アレキサンダー校：シャノン・ティッピン校長、ロン・モニン教諭）
2018.10.24	ウィニペグ市長にブライアン・ボウマン氏が再選
2019. 9.12- 9.27	第 25 回世田谷区中学生代表团 ウィニペグ市を訪問 生徒 21 名、引率 4 名（駒沢中校長 梶田和明、用賀中教諭 藤井徹平、梅丘中教諭 佐藤ちえり、区国際担当 今中春菜）
2020. 1.21- 2.2	第 23 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 20 名、引率 4 名（ヴァイカウント・アレキサンダー校：シャノン・ティッピン校長、ゼネラル・ビィング校：コリーン・ロバーツ校長、戸塚猛、チャールズウッド校：ブロンウェン・デイヴィス副校長、）
2020.4～2024.3	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により直接交流休止
2020.10.5	姉妹都市提携 50 周年（コロナ禍につき親善訪問・式典等は中止。）
2022.11.1	ウィニペグ市長にスコット・ギリングム氏が当選（2022.10.26 選挙）
2024. 9.12- 9.22	第 26 回世田谷区中学生代表团 ウィニペグ市を訪問 生徒 14 名、引率 4 名（砧中校長 加藤敏久、駒沢中教諭 張元文子、船橋希望中教諭 須田のり子、区国際担当 十河初瀬）
2025. 1.27- 2.8	第 24 回ウィニペグ市中学生親善訪問団来訪 生徒 13 名、引率 3 名（リンデン・メドウズ・スクール：ミッシェル・パークレー副校長、キンバリー・ブライソン教諭、ジーエフ・ンクォンタ教諭）

令和6年度世田谷区姉妹都市中学生教育交流事業

(カナダ・ウィニペグ市)

活動報告書

令和7年3月発行

編集・発行 世田谷区 生活文化政策部 文化・国際課
〒156-0043 世田谷区松原 6-3-5
Tel 03-6304-3439 Fax 03-6304-3710
広報印刷物登録番号 NO. 2374

